

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

実施内容報告書

団体名: 公益財団法人大垣国際交流協会

1. 事業の概要

事業名称	地域日本語力はぐみ事業 ～外国人から支援ボランティアまで～
事業の目的	言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばし、生活に必要な情報等を得て、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設けることで、地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎をはくむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添うことで、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	大垣市を中心とした地域には外国人労働者を雇用する工場等が多く、大垣市に在住する外国人の割合は約2.7%と全国平均より高い。近年は日系ブラジル人を中心に日本に定住することを希望する人の増加や国際結婚の増加により、日本社会の一員として暮らす外国人が増えるとともに背景も多様化している。 喫緊の課題である「ほとんど日本語が話せない外国人」が最低限の日本語能力を得ることを目的としてきた日本語教室に加え、平成28年度は日本社会で中長期的に暮らす中で必要となる医療などの場面での日本語を学習するコースを開催した。しかし、日常生活の悩みや困っていることを外国人市民に尋ねたアンケート結果(平成28年度大垣市実施)によると、必要な情報が得られないことが上位に上がった。その結果からも、上記の日本語教室だけでは生活する上での情報習得に十分ではないことが判明した。生活場面の日本語学習のために作成している教材を活用して、生活情報を得られる支援が必要である。
事業内容の概要	地域在住の外国人が日本語や地域生活のルールを習得する「日本語教室」を実施する。 従来実施してきたほとんど日本語が話せない外国人を対象とした日本語の基礎を学ぶコースの継続に加え、平成28年度から実施した日常生活の様々な場面(医療機関の受診など)の会話を学ぶ会話学習に特化した会話コースを実施し、外国人市民が生活に不可欠な日本語コミュニケーション力をつけることができる日本語教室を継続して開講する。 それに加え、ゴミ出しなどの生活情報習得を目的とした日本語教室を新たに開講し、ゼロ初級レベルの学習者を含め、あらゆる日本語レベルの外国人が生活に必要な情報を得るための日本語コミュニケーション能力をはくめる学習機会を提供する。 日本語学習をサポートできる人材を多くはくむために「日本語指導ボランティア講座」を実施する。 外国人のところに寄り添うサポートを同じ地域の住民自身の手で行い、継続的かつ自律的に日本語教育が実施できるために、市民ボランティア人材を育成する。 平成28年度事業で作成している日本語学習教材の改善をする。 日本語教室等の日本語学習支援事業で使用し、学習者、指導者、アシスタント等からフィードバックをもらい、それを元に、この地域に暮らす外国人の日本語学習に役立つ教材の改善を行う。単なる語学教材ではなく大垣での日常生活に必要な生活情報・行政情報を掲載することで、外国人が自主的に学習し、自立した生活を助ける教材がより実践的なものとなるよう、改善していく。なお、この教材を効果的に活用するため翌年度以降の日本語教室でも使用し受講者に配布、またウェブサイトに掲載し、より多くの外国人に使用してもらうことを目指す。
事業の実施期間	平成29年5月～平成30年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	伊藤 かな	岐阜経済大学 非常勤講師
2	市橋 剛	岐阜県多文化共生推進員
3	大塚 親子	大垣市立中川小学校 教諭
4	岡本 幸	CAPCO(大垣外国人コミュニティーサポートセンター)代表
5	柏谷 涼介	ホツマインターナショナルスクール 総括教務主任
6	桐山 知弘	大垣市まちづくり推進課 主幹
7	小寺 里香	岐阜経済大学 非常勤講師
8	所 涉子	大垣市多文化共生サポーター事業 コーディネーター
9	社本 久夫	公益財団法人大垣国際交流協会 事務局長



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年7月29日(土) 15:00 - 17:00	2時間	大垣市サイトピア センター 学習室 3-2	伊藤 かな、大塚 親子 岡本 幸、柏谷 涼介 桐山 知弘、小寺 里香、 所 渉子、社本 久夫、 吉安 三恵、熊谷 康宏	平成29年度「外国人市民のための日本語教育事業」 について ・各取組の概要及び実施状況を説明。より効果的な取組 とするため各取組の活動内容について意見交換をし、改 善点を検討した。 事業成果の検証方法の検討 ・事業の成果検証方法をアンケートとし、アンケート案が 目標・目的を効果的に評価できるものか検討し、修正案 の話し合いをした。
2	平成29年12月3日(日) 13:00 - 15:00	2時間	大垣市サイトピア センター 学習室 3-5	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 桐山 知弘、小寺 里香 所 渉子、社本 久夫 吉安 三恵、熊谷 康宏	平成29年度の事業の実施状況及び評価(中間報告) ・各取組の実施状況と、既に終わった取組のアンケート 結果(日本語教室第1期他)の報告、各取組への視察を 通じて目的・目標への達成度を協議した。 ・教室活動の進め方、作成中の教材の改善方法・内容に ついて、検討した。 平成30年度「外国人市民のための日本語教育事業」 について ・来年度に向けて、今年度の取組の反省点などを踏ま え、改善していくための方向性を説明、検討した。
3	平成30年3月4日(日) 13:00 - 15:00	2時間	大垣市サイトピア センター 学習室 3-5	伊藤 かな、市橋 剛 大塚 親子、岡本 幸 柏谷 涼介、桐山 知弘 所 渉子、社本 久夫 吉安 三恵、熊谷 康宏	平成29年度の事業評価について ・全取組のアンケート結果及び視察を通して目的・目標 への達成度を協議した。 平成30年度「外国人市民のための日本語教育事業」 について ・平成29年度の結果を元に、改善していくポイントを含め た事業計画の具体的な内容について説明した。

(2)事業の実施体制

当地域の生活者としての外国人に関連する主な関係機関・団体に所属する人が運営委員会に入り、うち3名が事業の中核メンバーとして事業を推進していく体制で実施した。日本語教育の専門機関且つ大垣市とも複数の事業で既に連携・協力体制にある大学に所属するメンバーがコーディネーターとなったことで、行政・日本語教育機関・事業実施主体との連携ができた。

各機関・団体の役割としては、当協会はこれまでに培ってきた外国人支援の実績から外国人への学習機会の周知やボランティアの募集を中核的に行った。また、長年地域の日本語教育に携わり、且つ平成28年度の当事業のコーディネーター経験者がコーディネーターとして地域の外国人の実情に即した教育プログラムを作成し、日本語教育機関が日本語学習の指導技術を提供し、連携することができた。それぞれの専門性を活かした実施体制を作り、参加者に受け入れられやすい事業を行うことができた。

(3)地域における連携体制

大垣市、日本語教育を行っている地域の大学・日本語学校、公立学校、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員ら日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者が運営委員会のメンバーに入り、多角的かつ実効的な検討・検証ができた。各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力した。また、在住外国人による団体と共に取り組むことで、日本人目線だけでなく当事者である外国人の目線も反映させ、地域の課題解決に繋げることができた。このような関係機関・団体と連携の連携体制の中で、新しいつながりができ、また課題を共有し、今後地域全体として多文化共生のために何が必要かを共に考えることができた。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施【活動の名称： 外国人市民のための日本語教室「基礎コース」】										
目的・目標	地域で暮らす中で必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す。やさしい日本語での会話ができるようにする。									
対象	ゼロ初級レベル(日本語での意思疎通がほとんどできない人)									
取組の内容	<p>・「自分のことを伝える」を大きなテーマとしたカリキュラム(地域の住民との人間関係のきっかけを作り、受け入れてもらうため)で実施した。具体的には自分自身のこと、家族のこと、自国のことなどについて会話ができるような日本語表現と、基礎文型の学習をした。</p> <p>・3回学習ごとに復習回を入れ、振り返りによる学習内容の定着を図るとともに、学習者自身が習得状況を把握し自発的に目標や計画を立てられるよう導いた。</p> <p>・会話が中心の教室であるが、ひらがなの読み書きを学ぶ文字学習も行った。(冒頭15分間。アシスタントとして参加するボランティア主導)。</p> <p><指導者アシスタントの参加></p> <p>・各回3名程度の日本語指導ボランティア(日本語指導ボランティア講座受講者)がアシスタントとして参加して、グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェックなど指導者のサポートをした。</p> <p><託児の実施></p> <p>・子育て世代の外国人の学習環境を整えるため、日本語教室の実施に併せて託児室を開設した。託児の利用実績は第1期3人、第2期8人の計11人(のべ70人)。</p> <p><コーディネーターの設置></p> <p>・事業全体のコーディネーターとは別途、日本語教育の部分のみをコーディネートするコーディネーターを設置した。教室のカリキュラム作成、教材の選定・作成、講師の調整およびカリキュラムの伝達、各回の引継ぎ連絡等をした。</p>									
実施期間	第1期:平成29年5月14日(日)~平成29年8月20日(日) 第2期:平成29年10月1日(日)~平成30年1月14日(日) [各期全15回]			曜日・時間帯			日曜日(9:30~11:30)			
開催回数	全60時間(1回2時間×15回×2期)			開催場所			大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室ほか			
参加者	総数 78人 (日本語学習者 49人(1期:26人、2期:23人)、 指導者:9人、支援者(アシスタント) 20人) 参考 学習者の平均参加者数:1期:14.1人、2期:12.1人			使用した教材・リソース			日本語教室コーディネーター作成のプリント、スライド資料			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	10人(1期:8人、2期:2人)	0人	14人(1期:5人、2期:9人)	11人(1期:5人、2期:6人)	0人	0人	0人	1人(1期:1人、2期:0人)	6人(1期:5人、2期:1人)	
マレーシア(2人(1期:2人、2期:0人))、パキスタン(3人(1期:0人、2期:3人))、米国(2人(1期:0人、2期:2人))										
カリキュラム案活用	<p>・「人とかかわる」の自己紹介、母国や家族の紹介</p> <p>・「社会の一員となる」の日程や場所の把握</p> <p>の内容を中心に活用した。</p>									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名		
1	第1期 平成29年5月14日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-1	16	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本に来た理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本に来た理由を伝える語彙、表現の学習	藤原 弥央	市橋 剛 北村 聖六 林 光子		
2	平成29年5月21日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	17	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるための、「今何をしてますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習	藤原 弥央	今井 啓 大野 久美子 富田 清子 家倉 綾子		
3	平成29年5月28日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-1	15	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るための、「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」の問いに答えられる学習	高木 弥希	内山 文雄 山下 富美子 度會 千穂		
4	平成29年6月4日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	19	1~3回の復習 (第1期の1~3回)	1~3回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、自分の名前や職業、趣味など、自己紹介の表現を使えるようにする学習	高木 弥希	日下部 千尋 林 光子 村北 嘉子		
5	平成29年6月11日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-1	16	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は 人です」、「子どもは 歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習	岩本 宏明	市橋 剛 伊藤 由美子 家倉 綾子 山下 富美子		
6	平成29年6月18日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	19	家族の性格を伝える	「性格のことは」、「好きなこと」、「嫌いなこと」、「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習	藤原 弥央	今井 啓 粥川 美重子		

7	平成29年6月25日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	13	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「記念日に人にをもらいました」「あげました」など授受表現の学習	藤原 弥央	市橋 剛 大野 久美子
8	平成29年7月2日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	17	5~7回の復習 (第1期の5~7回)	5~7回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、家族の職業や性格など、家族を紹介する表現をできるようにする学習	川部 淳子	粥川 美重子 林 光子 村北 嘉子
9	平成29年7月9日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	14	母国について伝える	位置、方角、「日本の倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	佐藤 幹樹子	伊藤 祥 家倉 綾子 山下 富美子
10	平成29年7月16日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	14	母国について伝える	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	浅井 里美	伊藤 由美子 今井 啓 大橋 節子
11	平成29年7月23日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	16	母国について伝える	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	藤原 弥央	伊藤 由美子 今井 啓 大橋 節子
12	平成29年7月30日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	10	9~11回の復習 (第1期の9~11回)	9~11回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、母国の名物や食べ物など、国や場所を説明する表現をできるようにする学習	武山 量昭	大橋 節子 粥川 美重子 村北 嘉子
13	平成29年8月6日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	10	友人関係を作る(誘う)	人を誘ったり、誘いに応じたりすることができるよう「今度、一緒にませんか」やそれに答える会話の練習	今枝 里帆	市橋 剛 林 光子 度會 千穂
14	平成29年8月13日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	8	友人関係を作る(誘いに応じる)	前回の勧誘表現を踏まえて、「いつがいいですか」「日時はどうですか」など日程の調整をするための語彙、表現	佐藤 幹樹子	伊藤 祥 今井 啓 大野 久美子
15	平成29年8月20日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	8	全体の復習・まとめ	これまで学習した構文の復習。習った構文を用いた他の参加者と会話練習や自己紹介を通じた練習	藤原 弥央	伊藤 祥 山下 富美子
16	第2期 平成29年10月1日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	12	自己紹介	初めて会った人に自分の基本情報、日本にきた理由を伝えるための、名前、出身国、住所、日本にきた理由を伝える語彙、表現の学習	藤原 弥央	市橋 剛 大野 久美子 村北 嘉子
17	平成29年10月8日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	17	会社・学校・職業など、職業、立場を伝える	初めて会った人に自分の職業、立場などを伝えるための、「今何をしていますか」や「仕事はどうですか」の問いに答えられる学習	浅井 里美	伊藤 祥 伊藤 由美子 今井 啓
18	平成29年10月15日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	16	休日・趣味について伝える	休暇や休みの日にすることを伝え、友人関係のきっかけを作るための、「休みは何曜日ですか」や「休みの日は何をしていますか」の問いに答えられる学習	藤原 弥央	伊藤 祥 伊藤 由美子 家倉 綾子
19	平成29年10月22日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター自治会室	12	16~18回の復習 (第2期の1~3回)	16~18回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、自分の名前や職業、趣味など、自己紹介の表現をできるようにする学習	川部 淳子	市橋 剛 今井 啓 大橋 節子 山下 富美子
20	平成29年10月29日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	13	家族の構成、簡単な紹介をする	「家族は人です」、「子どもは歳です」、「子どもは小学校に行っています」など、家族の基本的な情報を伝える語彙、表現の学習	佐藤 幹樹子	今井 啓 大橋 節子 村北 嘉子
21	平成29年11月5日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	10	家族の性格を伝える	「性格のことは」「好きなこと」「嫌いなこと」「上手なこと」など、人の内面的な情報を伝える語彙、表現の学習	高木 弥希	市橋 剛 粥川 美重子 林 光子
22	平成29年11月12日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	15	記念日、思い出などを伝える	「誕生日はいつか」の問いに答える日時・日付の表現や、「記念日に人にをもらいました」「あげました」など授受表現の学習	藤原 弥央	今井 啓 大野 久美子 大橋 節子
23	平成29年11月19日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンターかがやき活動室6-2	16	20~22回の復習 (第2期の5~7回)	16~18回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、家族の職業や性格など、家族を紹介する表現をできるようにする学習	高木 弥希	今井 啓 村北 嘉子 家倉 綾子
24	平成29年11月26日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター男女共同参画活動室	12	母国について伝える	位置、方角、「日本の倍」、人口など、自分の国の情報を説明する語彙、表現の学習	佐藤 幹樹子	伊藤 祥 粥川 美重子 酒井 弘美

25	平成29年12月3日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	14	母国について伝える	自分の国の特徴について簡単に伝えることができるよう「どんな国か」や「何が有名か」の問いに答えられる学習	渡邊 麻紀	市橋 剛 大橋 節子 林 光子
26	平成29年12月10日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	12	母国について伝える	自分の国の食文化について簡単に伝えることができるよう「どんな料理が有名か」や「何をよく食べるか」という問いに答えられる学習	藤原 弥央	伊藤 祥 今井 啓 大橋 節子
27	平成29年12月17日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	13	24~26回の復習 (第2期の9~11回)	24~26回の内容を復習し定着を図るとともに、習った構文を続けて話せるようにすることで、母国の名物や食べ物など、国や場所を説明する表現を使えるようにする学習	武山 量昭	伊藤 祥 酒井 弘美 家倉 綾子
28	平成29年12月24日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	7	友人関係を作る(誘う)	人を誘ったり、誘いに応じたりすることができるよう「今度、一緒にませんか」やそれに答える会話の練習	藤原 弥央	今井 啓 江木 洋治 大橋 節子
29	平成30年1月7日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	7	友人関係を作る(誘いに応じる)	前回の勧誘表現を踏まえて、「いつがいいですか」「日時はどうですか」など日程の調整をするための語彙、表現	佐藤 幹樹子	市橋 剛 今井 啓 藤屋 富雄 村北 嘉子
30	平成30年1月14日(日) 9:30~11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	6	全体の復習・まとめ	これまで学習した構文の復習。習った構文を用いた他の参加者と会話練習や自己紹介を通じた練習	藤原 弥央	伊藤 祥 岡田 千栄子 粥川 美重子

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

【全回通した特長】

・文字の読み書きができない人も視覚的に理解できるようにスライドを使い、基礎レベルの授業を行った。



・学習者が多く発話できるよう、練習の機会を多く設けた。指導者だけでなく、アシスタント(ボランティア)も学習者の様子をみながら支援をし、グループで行う会話練習の相手役も務めた。



・子育て世代も参加しやすいように、託児室を設けた。また、託児に参加した子どもも日本語に触れられるように、託児中に子ども向けの映像学習教材(数字や色などを学ぶ)を見せる時間も取った。



取組事例

【第3回(第1期の3回目):平成29年5月28日(日)】

アシスタントによる「ひらがな指導(さ行・た行)」

「ふりかえりシート」を使って前回の復習

初めての参加者もいたため、例を提示して確認した後、グループ内で会話練習。

「休みは何曜日ですか。」「休みは 曜日です」

曜日、仕事、休みなどの語彙の確認。その後、上記の文を提示しシートに記入。グループ内で練習。

「休みの日は何をしていますか」「休みの日はよく<趣味>をしています。/<場所>へ行きます。」「時から～ています。」

語彙を確認しながら、休みにすることをいくつか提示。シートに記入。

コミュニケーション練習

ここまでで提示したフレーズを使って、グループを超えて会話練習。

ふりかえり

語彙の復習、「ふりかえりシート(学習した表現や文型を記入する)」の記入を行った。

・会話練習の際、参加者が多い中国出身者同士で会話をする傾向がみられたが、指導者やアシスタントから誘導されるといろいろな国の人と練習ができ、最終的には積極的に他の国の人も会話ができた。

取組事例

【第15回(第1期の15回目):平成29年8月20日(日)】

コミュニケーションゲーム

日付の言い方を復習。その後、全員で誕生日の順に輪になって並んでもらうゲームを実施した。並んだ後は「誕生日は 月 日です」と順に言ってもらい、定着を図った。

コミュニケーションゲーム2

仲間探しゲーム。お題を提示し、その答えが同じ人で集まりペア・グループを作った。習ったことの復習になるよう、「家族は何人ですか」「趣味は何ですか」「いつ大垣に来ましたか」などをお題にした。集まった後にさらにお題を提示し、集まった人同士で会話を深めてもらった。(例:「家族は何人ですか」「家族を紹介してください」)

中にはお題や答え方の日本語がわからない人もいたが、「ふりかえりシート」を見るように促し、今まで学習したことを思い出しながら参加できた。

自己紹介、他己紹介

ペアを作り、お互いに自己紹介をした。自己紹介を通して、これまで勉強してきた語彙や表現を確認した。同時に、相手の自己紹介を聞いて理解する聞き取り練習を行った。最後に、教室内の全員に向け、ペアになった相手の紹介をする時間をとった。学習したことを使い人前で話すことで達成感を持ってもらうよう誘導した。

修了証授与

受講者がモチベーションを維持し、達成感を持てるよう、最終回に修了証を授与した。

・第1期の最終回ということもあり、これまでの復習を兼ねゲームなど様々な方法でコミュニケーションを取る活動を行った。参加者が8名と少なく活動が成り立つか心配したが、アシスタントのフォローもあり積極的に活動できた。

・まとめの回ということで、指導者からのフォローは最低限にし、学習者の自発的な活動を見守る方針を進めた。

修了書授与



(2) 目標の達成状況・成果

・目標にある「やさしい日本語」での会話ができるように、カリキュラムや絵や写真を多く用いたスライドを使うなど工夫して、教室活動を行った。

・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した。詳細は別紙アンケート参照。

・[問6]「このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか」に対し、アンケートに回答した学習者全員が、「上手になった」または「まあまあ上手になった」と回答している。このことから、目標にある日本語の習得ができたと考えられる。

・[問7]「このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか」に対し、アンケートに回答した学習者全員が、「できるようになった」または「少しできるようになった」と回答している。このことから、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができる機会になったと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・受講資格には明確な基準がないため日本語レベルの差が大きく、難しく途中で学習をやめる人や、逆に簡単すぎると感じた学習者がいたようである。

・後半になると、休みがちになる学習者がいた。最後まで受講した人には修了証を渡すなどモチベーションを保つ工夫を行ったが、修了証授与の周知不足もあり改善する必要がある。他の方法についても検討していく。

日本語教育の実施【活動の名称： 外国人市民のための日本語教室「緊急時会話コース」】

目的・目標	地域で暮らすために必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す。日本語を使って安全に自立した生活ができるようにするため、生活で必要な情報を得られるよう自ら尋ねることや、必要な状況や要求を伝えることができるようにする。								
対象	初級レベル修了者(簡単な日本語を使い会話ができる人)								
取組の内容	<p>・生命に関わる重要・緊急な場面の会話に特化したコース。 ・具体的には、「医療機関の受診(予約の仕方、症状の伝え方)」「110番・119番に電話(通報)」の2つの場面を取り上げた。第1～第3回:病院受診時の会話(近所の人により病院を尋ねる、受診の予約をする、診察を受ける) 第4回 :警察 110番 への通報 第5回 :消防 119番 への通報 ・平成28年度に作成した日本語学習教材を使用して授業を行い、その場面で必要な表現や語彙を学習した。 ・「110番・119番に電話」の学習では、警察署や消防署の職員を専門分野講師として招き、実際の電話対応の練習を行うと共に行政情報の提供も行った。 ・指導者がスライドによる視覚的資料を使い、回ごとにテーマを持った学習を行った難しい語彙も出てくるため、スライドでイラストを提示して理解を促した。</p> <p><指導者アシスタントの参加> ・各回3名程度の日本語指導ボランティア(日本語指導ボランティア講座受講者)がアシスタントとして参加して、グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェックなど指導者のサポートをした。</p> <p><託児の実施> ・基礎コースと同様、託児室を開設。託児の利用実績は第1期2人(のべ10人)、第2期の託児申込者はなし。</p> <p><コーディネーターの設置> ・基礎コースと同様、日本語教室コーディネーターを設置した。役割は基礎コースと同じく、教室のカリキュラム作成、教材の選定・作成、講師の調整およびカリキュラムの伝達、各回の引継ぎ連絡等をした。</p>								
実施期間	第1期:平成29年8月27日(日)～平成29年9月24日(日) 第2期:平成30年1月21日(日)～平成29年2月18日(日) [各期全5回]			曜日・時間帯		日曜日(9:30～11:30)			
開催回数	全20時間(1回2時間×5回×2期)			開催場所		大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室ほか			
参加者	総数52人 (日本語学習者 30人(1期:9人、2期21人)、 指導者・支援者33人) 指導者 4人、支援者18人(アシスタント14人、 警察・消防職員4人) 参考 学習者の平均参加人数 1期:5.2人、2期:13.4人			使用した教材・リソース		日本語教育のコーディネーター作成プリント、スライド資料			
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0人	0人	8人(1期:5人、 2期:3人)	14人(1期:3人、 2期:11人)	0人	0人	0人	0人	4人(1期:1人、2期:3人)
ロシア(2人(1期:0人、2期:2人))、米国(1人(1期:0人、2期:1人))、パキスタン(1人(1期:0人、2期:1人))									
カリキュラム案活用	<p>・「健康・安全に暮らす」の「医療機関の受診」 ・「110番や119番に電話する」の箇所を活用した。</p>								

日本語教育の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
第1期	平成29年8月27日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	5	病院 (隣人に様態を伝えて助言を求めることができる)	身体の部位、診療科の種類、病状などの言葉を学習し、「熱があるんですが、どこの病院がいいですか?」や「すみません、してください」などが伝えられる学習	今枝 里帆	村北 嘉子 家倉 綾子 度會 千穂
					病院 (電話して予約をとることができる)	予約の時間に関する言葉(曜日、時間)、「予約したいです」など、予約時に必要な言葉、会話の学習		
					病院 (初診の手続き、診察時の簡単な受け答えができる)	診察時の簡単な対応の表現や、医者の言葉がわからない時に聞き返す表現、薬の飲み方に関する言葉、会話の学習		
					警察への通報(110番)	犯罪に遭遇した際、警察(110番)に電話し簡単な状況説明をするための言葉、会話の学習		
					消防への通報(119番)	火事・救急時に、消防(119番)に電話し場所や簡単な状況を説明するための言葉、会話の学習		
第2期	平成30年1月21日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	12	病院 (隣人に様態を伝えて助言を求めることができる)	身体の部位、診療科の種類、病状などの言葉を学習し、「熱があるんですが、どこの病院がいいですか?」や「すみません、してください」などが伝えられる学習	藤原 弥央	伊藤 祥 江木 洋治 林 光子

7	平成30年1月28日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	13	病院 (電話して予約をとることができる)	予約の時間に関する言葉(曜日、時間)、「予約したいです」など、予約時に必要な言葉、会話の学習	渡邊 麻紀	伊藤 祥 今井 啓 村北 嘉子
8	平成30年2月4日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	14	病院 (初診の手続き、診察時の簡単な受け答えができる)	診察時の簡単な対応の表現や、医者の言葉がわからない時に聞き返す表現、薬の飲み方に関する言葉、会話の学習	渡邊 麻紀	岡田 千栄子 粥川 美重子 西脇 聖夫 藤屋 富雄
9	平成30年2月11日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	18	警察への通報(110番)	犯罪に遭遇した際、警察(110番)に電話し簡単な状況説明をするための言葉、会話の学習	渡邊 麻紀 大垣警察署職員	市橋 剛 今井 啓 日下部 千尋
10	平成30年2月18日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター 男女共同参画活動室	10	消防への通報(119番)	火事・救急時に、消防(119番)に電話し場所や簡単な状況を説明するための言葉、会話の学習	佐藤 幹樹子 大垣消防署職員	伊藤 祥 村北 嘉子 度會 千穂

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

【第4回(第1期の4回目):平成29年9月17日(日)】

テーマの説明(警察や泥棒の写真を提示し、警察に電話をかける時の会話を学ぶことを説明)
 助けを求める練習
 ひったくりに遭った時などに使える「泥棒!」「助けて!」という表現を学習。大きな声でリピートしてもらった。
 警察に電話をする練習
 大垣警察署や110番通報について確認。事件の言葉(ひったくり、ストーカー、車上荒らし など)や、事故の言葉(ぶつかる、ひかれる など)をスライド資料で説明。
 前述の語彙や表現を使いグループで練習。アシスタントによる補助や練習を取り入れた。
 場所の表現
 「東西南北、前、隣、近く」などの語彙を学び、配布した地図を見ながら自分で位置の情報を説明できるように練習をした。
 電話を代わってもらう表現
 わからないときは近くにいる日本人に代わってもらうことの大切さを話し、お願いする際の言い方を提示
 人の特徴の表現
 人物のイラストが載っているプリントを配布し、その人物の特徴(性別、体形、髪型、服装など)を説明する練習。スライドで視覚的なイメージを提示しながら、語彙を確認
 ロールプレイ
 実際に警察署から派遣された警察職員と110番通報のロールプレイを行った。全員がロールプレイに参加し、警察官とのやり取りを体験した。

警察署職員と通報の練習



取組事例

【第6回(第2期の1回目):平成30年1月21日(日)】

テーマの導入(アシスタントを含めて参加者同士で「病気」について話をした。具体的には「日本で病院へ行ったことがありますか」「病気になった時どうしますか」など。)
 体の名称の学習
 体・顔のイラストシートを配布し、語彙を学習(目、鼻、肩、指 など)。学習者同士、母語で確認している人もいた。
 病院の名称の学習
 病院の診療科(外科、耳鼻科、小児科 など)の語彙を学習。
 病気の名称の学習
 様々な病気の表現(痛い、かゆい、ガンガンする、やけど、手が震える など)を学習。
 会話練習
 病気の症状を伝え、どこの病院がいいのかを近所の人に尋ねる、というロールプレイを実施。適宜ペアを入れ替えて繰り返し練習をした。
 情報を尋ねる表現の学習
 上記の補足として、病院の名前に加えて、その病院の電話番号や住所を尋ねる時の尋ね方の表現を学習。

消防署職員と通報の練習



(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できるようなカリキュラムを作成し、尋ねることや伝えることができるように、会話やりとりの練習を多く入れて教室活動を行った。
・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した(別紙アンケート参照)。
・[問4]「勉強したテーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか」に対し、回答した8割以上の学習者が「とても話せるようになった」または「少し話せるようになった」と答えた。このことから、目標の日本語習得ができたと考える。
・[問8]「このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか」に対し、回答した9割以上の学習者が「できるようになった」または「少しできるようになった」と答えた。このことから、学習のテーマに関しては目標にある「安全に自立した生活ができるように日本語を習得する」ことができたと考えられる。

(3) 今後の改善点について

・今年度は人命にかかわることとして病院・警察・消防に関する会話を行ったが、他の場面の会話(買い物など)を学びたいという要望もある。また、受講の動機を聞いたところ、テーマへの関心より「すぐに学習したかったから」と答えた人が多かった。学習者の背景によっても必要な場面が異なるが、ニーズを見極めてテーマを選ぶ必要がある。
・第1期の受講者が少なかった要因として、「生活情報習得クラス」の開催時期と重なり、受講者が分散したためだと思われる(時間帯を変えて開催時期を重ねて両方受講しやすいようにしたが、午前も午後も受講することは負担になりどちらかを選ぶ人がほとんどだったため、分散してしまった)。開催時期の決定については、受講者の環境なども考慮に入れた検討が必要である。

日本語教育の実施【活動の名称： 外国人市民のための日本語教室「生活情報習得クラス」】									
目的・目標	地域で暮らすために必要な情報を得て、地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語の習得を目指す。生活に必要な情報を習得し、自立して安心した暮らしができるようにする。								
対象	生活情報の習得が必要な外国人(日本語レベルは問わない)								
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活で直面する場面の生活情報・語彙などを学習した。 具体的には、平成28年度に作成した教材から次の4テーマを選び、その教材を使用して行った。 指導者がスライドによる視覚的資料を使い授業を行った。 指導者は、昨年度の教材執筆者であり、効果的に教材を使うことができた。また、執筆時に関係各所で聞き取りをした生活情報や行政情報の知識をカリキュラムや教室活動の組み立てに活かすことができた。 <p>「ごみ出し」：ごみの出し方を近所の人に尋ねる表現やごみの種類の語彙、分別活動を通して、ごみ出しで気をつけることを学んだ。</p> <p>「電話をかける」：電話の際の表現・語彙を学んだ。</p> <p>「災害」：災害に関する語彙や表現、地震や水害(この地域で発生する確率が高い)に関する語彙や起きたときの対処法、避難場所の確認、日頃の準備などについて学んだ。</p> <p>「交通ルール」：道を尋ねる時や説明をする時によく使われる表現を学んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1回完結型で開催(災害のみ2回) 日本語の学習に加えて、専門分野講師として招いた大垣市役所職員から行政情報を伝えた。 <p>< 託児の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> 前述コースと同様、託児室を開設。託児の利用実績は2人(のべ10人)。 								
実施期間	平成29年8月20日(日)～平成29年9月17日(日)	曜日・時間帯	日曜日(13:00～15:00)						
開催回数	全10時間(1回2時間×5回)	開催場所	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室ほか						
参加者	総数13人 (日本語学習者 8人、指導者 3人、 市職員2人(ごみ、災害関係課の大垣市職員2人))	使用した教材・リソース	平成28年度に作成した教材(各テーマのページ)、スライド資料、 ゴミの分け方・出し方パンフレット(大垣市作成)、災害ガイドブック(大垣市作成)						
出身・国別内訳(人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	0人	0人	5人	2人	0人	0人	0人	0人	1人
カリキュラム案活用	<ul style="list-style-type: none"> 「健康・安全に暮らす」の「災害に備え、対応する」、「目的に移動する」の「交通標識や街の案内地図を読む」、「社会の一員となる」の「ごみ出し」、「情報を収集・発信する」の「電話を掛ける」の箇所を活用した。 								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名	
1	平成29年8月20日(日) 13:00～15:00	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	7	ごみ出しのルールやごみの分別活動	ごみの種類の言葉、ごみの分別活動を行い、市の職員による指導、近所の人にごみの出し方を尋ねる表現の学習	小寺 里香 大垣市クリーンセンター職員		
2	平成29年8月27日(日) 13:00～15:00	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	6	電話のかけ方	電話の受け答えの表現を学習。市役所に電話して通訳をお願いする場面と病院の予約の場面を想定した会話練習	小寺 里香		
3	平成29年9月3日(日) 13:00～15:00	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-3	6	災害(地震)	「警報」「地震」「震度」など地震災害に関することばや表現の学習、市の職員による防災や地震の際にとるべき行動の指導、避難所の確認	伊藤 かな 大垣市生活安全課(災害)職員		
4	平成29年9月10日(日) 13:00～15:00	2	大垣市スイトピアセンター かがやき活動室6-3	6	災害(気象災害)	「大雨警報」「暴風」など気象災害に関することばや表現の学習、水害時の避難所、非常持ち出し袋などの情報提供	伊藤 かな 大垣市生活安全課(災害)職員		
5	平成29年9月17日(日) 13:00～15:00	2	大垣市スイトピアセンター 男女共同参画活動室	5	道案内	目的地までの行き方を尋ねる表現と交通ルールや交通標識の学習	宮本 正美		

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

取組事例

<p>【第1回：平成29年8月20日(日)】</p> <p>テーマ(ごみ出し)の説明、イメージ作り</p> <p>ごみのサンプル(ビニール、紙、ペットボトル、トレイ、電池など)、ごみ捨て場実際に設置してある入れ物を用意し、分別活動をした。その後、市職員がゴミ分別の確認と指導をした。</p> <p>語彙(ごみ、洗う、持っていく など)や表現(「ごみはどこに捨てたらいいですか」など)を学習しグループ練習。</p> <p>ゴミの種類やゴミを出す曜日などの確認。</p> <p>まとめとして、「どうやって」「いつ」「どこに」捨てたらよいかを聞く表現を学び、ごみの種類や分け方の復習をした。</p>
--

ごみに関する語彙、表現の学習



市職員による分別指導



取組事例

【第3回：平成29年9月3日（日）】

テーマ（災害）の説明、イメージ作り

「震度6強体験シミュレーション」で地震が起こった時とその後の行動をイメージしてもらい、教室を家に見立て「火を消す」「机の下に入る」など実際に動きを行い、表現を練習。

災害に関する語彙や、防災についての知識を提示し、「～かもしれません。～ておいたほうがいいです。」という文型を学習。

一時避難場所および避難所や、震度について学習。防災ガイドブックを使って自分の住んでいる地域の避難所を確認（市職員と共に）。

避難所の様子を紹介。避難所で必要なものを、前述の文型を用いながら確認。

地震の際にとるべき行動を実践



市の職員から緊急地震速報の説明



(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できるように、テーマに関する語彙や表現を学ぶことに加えて、体を使った活動を入れたり、市の職員からの情報提供をしたり工夫をして実施した。

・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した（別紙アンケート参照）。

・【問4】「勉強したテーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか」に対し、回答した学習者全員が「とても話せるようになった」と答えた。このことから、目標の日本語習得ができたと考える。

・【問8】「このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか」に対し、回答した学習者全員が「できるようになった」または「少しできるようになった」と答えた。このことから、目標にある「地域社会の一員として安心して暮らすことができるように日本語を習得する」ことができた機会になったと考える。

(3) 今後の改善点について

・参加した人の満足度が高かった一方で、参加人数自体が少なかったことが課題である。緊急時会話コースとの違いが分かりづかったことや開催時期が重なったことなどが理由として考えられるが、他のコースとのバランスを再度検討する必要がある。

・対象者は日本語レベルを問わず生活情報の習得が必要な人としたが、日本語レベルの開きが大きかったことと、テーマに関する語彙がほとんど分からない受講者だと難しい印象で終わってしまうように感じられた。イラストを多く入れたスライドや翻訳を入れたプリントも用意したが、他の方法も含めた工夫が必要である。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施 【活動の名称： 日本語指導ボランティア講座 】

目的・目標	地域住民を対象として、外国人の日本語学習支援をサポートできる人材を養成する。サポートに必要な知識の習得を行うとともに、外国人と日常的に関わる地域住民の外国人に対する意識や多文化共生の考え方に理解を促す。								
対象	日本語学習支援・多文化共生に興味のある市民 当協会の日本語指導ボランティア登録者								
取組の内容	<ul style="list-style-type: none"> 日本語学習支援を継続する中で、日本語学習希望者に対して、支援できるボランティアが不足している状況が続いている。そのため、ボランティア人材の育成のため、サポートに必要な知識の習得ができる講座を実施した。 日本語の支援に必要な知識に加えて、継続的な支援のために外国人に対する意識や多文化共生の考え方に理解を促すこと、実際の活動(支援)を体験し触れてもらう日本語教室の見学という内容で実施した。 5回講座を計3期実施したが、全て同じ内容で実施した。 <p>1.大垣市外国人の現状、多文化共生とは、大垣市の取組、日本語学習支援事業について(1回) 2.日本語教え方の講義と実践(3回) 3.日本語教室の見学(1回)</p>								
実施期間	第1期：平成29年7月26日(水)～平成29年8月27日(日) 第2期：平成29年10月6日(金)～平成29年11月10日(金) 第3期：平成30年1月12日(金)～平成30年2月2日(金) 【各期全5回】			曜日・時間帯			第1期：水曜日(18:30～20:30) 最終回は日曜日(9:30～11:30) 第2期：金曜日(10:00～12:00) 4日目は日曜日(9:30～11:30) 第3期：金曜日(14:00～16:00) 4日目は日曜日(9:30～11:30) 日曜日実施は、日本語教室の見学。それ以外は座学の講義形式		
開催回数	全30時間(1回2時間×5回×3期)			開催場所			大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-2 ほか		
参加者	総数38人(日本語学習者 0人 指導者・支援者38人) 講師は、各期2人ずつ			使用した教材・リソース			講師作成のスライド資料とそのコピー 平成28年度に作成した学習教材のコピーと カリキュラム案の一部抜粋コピー		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	日本(38人) 内訳：第1期：21人(一般：12人、日本語指導ボランティア登録者9人) 第2期：10人(一般：7人、日本語指導ボランティア登録者3人) 第3期：7人(一般：2人、日本語指導ボランティア登録者5人) 参考 平均出席者数：1期：12.6人、2期：8人、3期：5人								
カリキュラム案活用	Can-do-statement を通して、生活場面で使える日本語を教える方法を考えるため、カリキュラム案の「生活上の行為の事例」を活用(P.12-13、P.14-15、P.64-65、P.78-79)								

養成・研修の実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要	講師名	補助者名
1	第1期 平成29年7月26日(水) 18:30～20:30	2	大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-3	14	在住外国人の状況、多文化共生について	大垣市在住外国人の現状、多文化共生に関するアンケート結果等から、日本語学習支援の必要性を考え、日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘 (大垣市まちづくり推進課職員)	なし
2	平成29年8月2日(水) 18:30～20:30	2	大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-3	17	教え方実践	日本語を教えるとは？外国人にとって分かりやすい日本語とは？(やさしい日本語)について考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし
3	平成29年8月16日(水) 18:30～20:30	2	大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-3	14	教え方実践	語彙や文法を学習者に説明する方法について考えた。生活で使える日本語を教えるために、can-do(何ができるか)について考え、そのためにはどのように教えたらよいかを考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし
4	平成29年8月23日(水) 18:30～20:30	2	大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-3	10	教え方実践	平成28年度に作成した日本語教材の「病院へ行く」の課を使用して、教え方の実践を行った。教え方のモデル例を示し、指導者と支援者のロールプレイをグループで行った。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし
5	平成29年8月27日(日) 9:30～11:30	2	大垣市サイトピアセンター かがやき活動室6-3	8	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、日本語教室会話コース(第2回)の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし
6	第2期 平成29年10月6日(金) 10:00～12:00	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-5	9	在住外国人の状況、多文化共生について	大垣市在住外国人の現状、多文化共生に関するアンケート結果等から、日本語学習支援の必要性を考え、日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘 (大垣市まちづくり推進課職員)	なし
7	平成29年10月13日(金) 10:00～12:00	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-5	9	教え方実践	日本語を教えるとは？外国人にとって分かりやすい日本語とは？(やさしい日本語)について考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし
8	平成29年10月27日(金) 10:00～12:00	2	大垣市サイトピアセンター 学習室3-5	7	教え方実践	語彙や文法を学習者に説明する方法について考えた。生活で使える日本語を教えるために、can-do(何ができるか)について考え、そのためにはどのように教えたらよいかを考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナショナルスクール)	なし

9	平成29年11月5日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	7	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、日本語教室基礎コース(第21回)の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
10	平成29年11月10日(金) 10:00~12:00	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	8	教え方実践	平成28年度に作成した日本語教材の「病院へ行く」の課を使用して、教え方の実践を行った。教え方のモデル例を示し、指導者と支援者のロールプレイをグループで行った。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
11	第3期 平成30年1月12日(金) 14:00~16:00	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	5	在住外国人の状況、 多文化共生について	大垣市在住外国人の現況、多文化共生に関するアンケート結果等から、日本語学習支援の必要性を考え、日本語学習支援などの取組を紹介し、多文化共生に関する理解を促した。	桐山 知弘 (大垣市まちづくり 推進課職員)	なし
12	平成30年1月19日(金) 14:00~16:00	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	5	教え方実践	日本語を教えるとは？外国人にとって分かりやすい日本語とは？(やさしい日本語)について考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
13	平成30年1月26日(金) 14:00~16:00	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	5	教え方実践	語彙や文法を学習者に説明する方法について考えた。生活で使える日本語を教えるために、can-do(何ができるか)について考え、そのためにはどのように教えたらよいかを考えた。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
14	平成30年1月28日(日) 9:30~11:30	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	4	日本語教室見学	日本語教室アシスタント人材の育成のために、日本語教室会話コース(第7回)の活動の様子を見学し、役割や外国人との接し方など学んだ。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし
15	平成30年2月2日(金) 14:00~16:00	2	大垣市スイ ピアセンター 学習室3-5	6	教え方実践	平成28年度に作成した日本語教材の「病院へ行く」の課を使用して、教え方の実践を行った。教え方のモデル例を示し、指導者と支援者のロールプレイをグループで行った。	柏谷 涼介 (ホツマインターナ ショナルスクール)	なし

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分)

取組事例

大垣市の在住外国人について
【第1回(第1期の1回目):平成29年7月26日(水)】
活動内容:多文化共生について(講師:大垣市まちづくり推進課(多文化共生係)職員)
・大垣市に在住する外国人の人口、国籍、在留資格等のデータから、外国人の現状を学んだ。
・大垣市が実施した多文化共生に関するアンケート(外国人と日本人を対象)結果から市民の意識、また外国人が困っていること、日本語の理解度などを紹介し、参加者と共に、外国人市民への日本語学習支援の必要性を考えた。
・多文化共生に関する大垣市の取組、日本語学習支援事業の具体的な取組を紹介し、多文化共生の考え方や日本語学習支援に関する理解を深めた。
第2期、第3期も同内容を実施

大垣市の外国人の状況についての講義



取組事例

座学講座

【第2回(第1期の2回目):平成29年8月2日(水)】

活動内容:日本語の教え方を考える(講師:ホツマインターナショナルスクール教務主任)

・教えるにあたってのヒント、外国人にとってわかりやすい日本語とは、どのように説明するとよいか、実際の生活場面で使える日本語の教え方など、支援のために必要な知識を学んだ。

・日本語支援の中で外国人とコミュニケーションを取るために必要となる「やさしい日本語」について学び、ある文章をやさしい日本語にする体験をグループで行った。

【第4回(第1期の4回目):平成29年8月23日(水)】

活動内容:平成28年度に作成した教材を使った教え方を実践

・平成28年度に作成した日本語学習教材「せいかつのにほんご～はなしましよ～」を使い、実際に教える体験をした。受講者3～4人のグループになり、支援者役、学習者役、観察する役に分かれて実施した。観察して感想を伝えてもらうことで、客観的分かり、実際に外国人に指導する際のヒントを持ってもらえるようにした。

第2期、第3期も同内容は実施

講師の講義の様子



教える実践のグループ活動



取組事例

日本語教室の見学

【第14回(第3期の4回目):平成30年1月28日(日)】

活動内容:日本語教室の見学(講師:ホツマインターナショナルスクール教務主任)

・実際に日本語を学んでいる様子や日本語教室で活動する指導者アシスタント(グループワークの主導、会話練習の相手役、発音のチェック、講師と共に会話モデルを示す役割を担う)の様子を見学した。

・活動の見学には主に2つの目的を持ち実施した。

座学の講座で学んだ「外国人とのコミュニケーション」を指導者やアシスタントがどのような工夫をしているかを見てもらい、外国人と接したり支援したりする場合の参考にしよう

アシスタントの役割や活動の様子を見てもらい、活動に繋がる人材を育成すること

・「より外国人に伝わる表現」「語彙、文法の教え方」などについての講義を受け、支援の参考にもらえるよう、見てもらうとよいポイントなどを話した上で、日本語指導者はどのような工夫をしているか見てもらった。

第2期、第3期も同内容は実施

教室の見学(写真前方は教室受講者)



(2) 目標の達成状況・成果

・目標が達成できているかの検証のために、アンケートを実施した(別紙アンケート参照)。

・アンケート[問6]「このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか」に対し、全員が「深まったと思う」または「まあまあ深まったと思う」と答えた。受講後には「生活者としての外国人」に対する理解が深まり、日本語学習支援の必要性を全員が感じたことから、一定の成果を上げることができたと考える。

・一般市民(ボランティア未登録者)が合計21人受講し、うち11人が講座受講後ボランティアに登録した(1期は12人中5人、2期は7人中5人、3期は2人中1人)。11人中9人はすでに日本語教室アシスタント又は、マンツーマン方式の日本語学習支援ボランティアとして活動している。割合は少ないが、講座を通して外国人が日本語を習得する必要性を感じ、関わる結果につながった。

(3) 今後の改善点について

・ボランティアをしたことのない受講者のうち、全員が日本語支援に「関わってみたい」または「できれば関わってみたい」と答えた(アンケート[問7]参照)一方、実際の活動に繋がった人が約半数と開きがあった。活動に繋がらない理由を把握し、活動のあり方を含め検討していく。

・日本語教室の見学だけにとどまらず、実際に参加してみることもできるのではないかという意見もあり、今後改善できることは取り入れていく。

・初めての人向けと実際に活動している人と同じ内容で行ったが、より効果的な支援ができるように、対象者別に内容を変えた講座が必要に感じた。

日本語教育のための学習教材の作成【教材の名称：大垣で暮らす外国人市民のためにほんご教材作成(改訂)】			
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に作成した日本語学習教材を、日本語教室を含む日本語学習支援で使用し、学習者や支援者らからのフィードバックを元に改善する。 日常生活に必要な語彙、表現を学び地域の人とコミュニケーションを取り、つながりが広げられるよう日本語を学ぶと共に、地域の生活に必要な行政情報等も得られる教材を作成し、継続的な日本語学習を行う。その中で、より使いやすいものになるよう、必要な改善を行い、外国人が地域で安心して、且つ自律的な生活を送り、地域社会へ積極的に参加できるようにする。 		
対象	地域在住の外国人 レベルは初級レベルを想定。日本語(ルビ、ローマ字付き)で書かれた教材で学習者の母語は限定しないが、語彙や会話表現は翻訳(英語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語)を入れた。		
教材の内容	<ul style="list-style-type: none"> 会話表現・語彙、生活情報や行政情報を入れた教材。 標準的なカリキュラム案の「生活上の行為の事例の整理」のうち、基本的な生活基盤を形成するため、又は安全にかかわり緊急性があるため情報として知っておく必要があると考えられている項目を中心とした教材で、大垣地域で暮らす外国人の生活場面や行為での会話表現・語彙が学べる教材。 平成28年度に、作成した教材を日本語教室等で使用し、学習者、指導者及びアシスタントなどの支援者からの意見を基に、必要な語彙、会話、情報を追加するなどの改善をした。 【改善方法】 <ul style="list-style-type: none"> マンツーマン方式日本語学習支援、外国人市民のための日本語教室(生活情報習得クラス)の受講者、支援ボランティア等から、アンケート及び直接の聞き取りを行った。 改善のための聞き取り等の内容については、執筆者と検討し、運営委員会でも意見を聞いた。 【主な改善点】 学習対象者(日本語レベルにおいて) 平成28年度版:初級後半レベルの学習者 平成29年度版:初級前半レベルの学習者が理解できるものに変えた。 ・当地域に暮らす生活者の日本語理解レベルに対して、28年度版はレベルが高いという意見が多かったため、内容はほとんど変えずに、語彙や会話文などの日本語をやさしくして、初級前半レベル版として作成した。 ・会話文を短く、やさしい文型のみにし、日本に来て間もない学習者も使える教材にした(レベルに合わせて、2種類の教材を usable ように、別物と分かるようなタイトルを付けた)。 ・28年度版教材のうち、1～11課の場面のみを扱った(12課は、より地域社会に溶け込んだ人が遭遇する場面(地域行事に参加する)設定のため、初級前半レベルの教材では扱わないことにした)。 ・会話文に加えて「ことば(語彙)」の表のところにも、ローマ字表記を入れた。 ・生活情報や行政情報の情報自体は、28年度に精査したため変えていないが、日本語表現をやさしい日本語に変えた(日本語のみの表記)。 翻訳 <ul style="list-style-type: none"> 近年、ベトナム人の学習者が増えているため、ベトナム語の翻訳を加え、ポルトガル語、中国語、英語の4言語の翻訳を付けた。これにより、当地域に暮らす外国人が理解できる割合が上がるようにした。 レイアウト <ul style="list-style-type: none"> 課の最初にテーマを想像できるイラストを入れ、やわらかい雰囲気にし、また文字のフォントもより見やすいものとして、日本語初級レベルの学習者が難しいと感じないようにした。 文法の説明 <ul style="list-style-type: none"> 文法の説明については、より必要な表現に厳選し、練習問題の箇所に翻訳を入れ、語彙だけでなく頻出する文型も理解し活用してもらえるようにした。 資料編 <ul style="list-style-type: none"> 資料編として付けていた「質問のことば」「数字」などは、巻頭に移動した。巻頭に持ってくることで、いろんな場面で必要なことばはいつでも見返してもらえるようにした。 平成28年度版では、本編の中に入っていた「あいさつ」も巻頭に移動し、翻訳をつけた。 教材の構成 【巻頭資料】 あいさつのことば、質問のことば、数字、時間、カレンダー、電話のかけ方、動詞の活用など 【本編】 自己紹介をする、市役所/国際交流協会へ、買い物をする、乗り物に乗る、学校へ通う、病院へ行く、110番・119番に電話する、災害のとき(台風・大雨・地震)、道を聞く、仕事をする、ごみを出す		
実施期間	平成29年6月5日(月)～平成30年2月28日(水)	成果物のリンク先	当協会ウェブサイト
作成教材の想定授業時間 コマ数と頁数	1回2時間×30回=60時間分	教材の頁数	教材のページ数:188ページ
カリキュラム案活用	<ul style="list-style-type: none"> 「標準的なカリキュラム案(文化審議会国語分科会)」の「生活上の行為の事例の整理」を参考に、基本的な生活基盤の形成、安全にかかわり緊急性が高い情報の項目を中心に教材で扱う場面を選定し、この教材用のカリキュラムを作成した。 「標準的なカリキュラム案」の「やり取りの例」や「文法」、「語彙」を参考にした。 		
教材の活用方法	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年度に作成した教材は実際の日本語教育の場で活用したと同時に、使用している外国人や支援者から声を聞き、今年度の改訂に反映させた。今年度事業で作成したものは、今年度の取組では使用していないが、今後活用する。 		
今後の活用の予定	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度実施予定の日本語教育事業の各取組において使用する。 日本語教室(生活の日本語クラス)で、学習教材として使用し授業を行う。 日本語指導ボランティア講座で、この教材を使用して教える方法を学ぶ。 マンツーマン方式で行っている学習支援で使用する。 ウェブサイトに掲載し、日本語教室受講者だけでなく、外国人市民が自由にダウンロードして使用できるようにする。 		

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

言葉や生活習慣、文化の違い等から日本人と外国人の間で生じるトラブルや言葉の壁によるコミュニケーション不足を解消するために、外国人が日本語コミュニケーション能力を伸ばし、生活に必要な情報等を得て、地域生活のルールやマナー、習慣等を理解する機会を設けることで、地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎をはくぐむ。また、地域住民が日本語学習支援の支援者として外国人に寄り添うことで、社会の中で孤立しがちな状況を軽減させ、日本人と外国人が共に認め合える地域づくりを目指す。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・受講者アンケートからわかるように、日本語教室の実施により、学習前と比較し外国人の日本語能力が向上し、日本人と会話をするために役立つことが分かる。それにより、今後地域の人と積極的にコミュニケーションを図る基礎ができたと思う。
・生活情報を学ぶ日本語教室という新しい取組を始めたが、生活する上では言葉だけでなく様々な情報が必要であり、受講者の満足度からも取組内容には一定の効果があったと考える。
・日本語指導ボランティア講座の実施により、受講後にボランティアとしての活動に繋がっていない人も含め、地域の外国人の状況を知ることができた。
・まだ十分でないところもあるが、日本人と外国人が共に寄り添える基盤を作ることができたと思う。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

・日本語教室及び日本語学習教材で扱うテーマや学習する語彙・表現は、「標準的なカリキュラム案」を参考に選び、実施した。
・「日本語教育を行う人材の養成・研修の実施」の取組では、カリキュラム案にある生活上の行為の事例を紹介し、生活者が遭遇する生活場面を理解してもらうと共に、どのような日本語能力が必要となるのかを考え、地域での日本語教室では文法積み上げではなく、学習によって何が出来るようになるかが必要だということを考える際に活用した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

行政機関との連携
・市の職員(災害担当、ごみの担当)が日本語指導者と共に教室活動(ごみの分別や避難所の確認など)の一部を行い、情報提供もした。また警察署、消防署職員による通報の仕方の講座実施及び情報提供をした(日本語教室)。直接外国人学習者に接することで、行政からの情報提供の大切さを感じてもらえた。
日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)
・地域の日本語学校及び大学で日本語を教える日本語教師(有資格者)が日本語教室の指導者をしたり、大学の日本語講師が教材を執筆したりしたことで、日本語教育の専門家による効果的な支援ができた。
運営委員会
・日頃から生活者としての外国人に関わる取組を行っている団体関係者(大垣市職員、日本語教育機関(市内の大学、地域の日本語学校)、公立学校の日本語教室講師、在住外国人による団体、大垣市の多文化共生事業のコーディネーター、岐阜県多文化共生推進員)に運営委員会のメンバーに入ってもらい、各機関とのネットワークを形成し、外国人との共生に関する課題を共有し、各取組の人材や情報の活用において連携・協力できた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

参加者募集にあたっては、次のように周知・広報した。
【日本語教室】
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌[ポルトガル語版]、
ちらし配布【日本語・ポルトガル語・中国語・英語版】(配布先:市役所、外国人学校、外国人児童・生徒放課後学習支援教室)
【日本語指導ボランティア講座】
・当協会ウェブサイト、大垣市広報誌、ちらし配布(配布先:市役所、図書館ほか市内の公共施設、市内大学、短期大学)

(6) 改善点、今後の課題について

日本語教室の活動・運営について
・国籍や日本語レベルが様々でも、回を重ねるごとに学習者同士の交流ができていた。学習者間の交流を促し、学習者が教室に参加したい、また教室が居場所になるよう、教室運営に活かしていく。
・基礎コースに相当する初級前半レベルの学習者希望者が多く、年2回の取組では追いつかない。また、教室を受講した後の受け皿となるマンツーマン方式日本語学習支援の待機期間が大変長い。開催の数を増やすと共に、マンツーマン方式の支援者となるボランティア人材の養成、新しい取組の導入を検討する必要がある。
日本語教材の作成について
・当協会独自で作成した教材を日本語教育事業の各取組で使用するとともに、他の活用方法の検討を継続していく。
日本語教育事業の実施体制、全体の取組について
・日本語教室の実施プログラムやカリキュラム作成など、日本語教育のコーディネートすべき業務は多岐にわたるため、今後より一層の連携を図っていく。
・日本語支援が必要な外国人に情報を伝達できるように各関係機関との連携の見直しをしていながら、互いに顔の見える関係づくりに向け、連携方法を含め検討していく。

(7) その他参考資料

・日本語教室(基礎コース、会話コース)カリキュラム
・アンケート(日本語教室(各受講者:基礎コース、緊急時会話コース、生活情報習得クラス)、日本語教室(指導者、アシスタント)、日本語指導ボランティア講座)

平成29年度 外国人市民のための日本語教室 基礎コース2017
【カリキュラム】

回	大きいトピック	・小さいトピック ・Can-do statements	問いかけの文 言語項目（文法）
1	自分	・自己紹介 「初めて会った人に自分の基本的情報と、なぜ日本に来たのかを伝える事ができる」	私は 名前 です。 (お名前は) 国名 から来ました。 (国はどこですか) 住所 に住んでいます。 (どこに住んでいますか) 理由の文 。それで日本に来ました。 (どうして日本に来ましたか)
2		・会社/学校/職業など 「初めて会った人に自分の今の職業、立場などを伝える事ができる」	今、会社/学校 で、～ています。 (今、何をしていますか) て形は「働いています」と「勉強しています」のみ。意味は理解させ、他の動詞では希望がなければ練習しなくてもいい 仕事/学校 は、 形容詞 です。 (仕事/学校 は、どうですか)
3		・休日/趣味 「趣味や休みの日によくすることを伝え、友人関係のきっかけを作る事ができる」	休みは 曜日 です。 休みの日はよく 趣味 ています。 休みの日はよく 場所/施設 へ行きます。 時から～ています。 (休みは何曜日ですか) (休みの日は何をしていますか)
4		1～3の復習	
5	家族	・自分の家族構成と簡単な紹介 「自分の家族についての基本的な情報を伝える事ができる」	家族 と 家族 がいます。 妻/夫 と二人です。 (ご家族は?) 結婚しています。 (ご結婚は?) 子どもが 人います。 家族名 は 歳です。 子ども は今、 教育機関 に行っています。 (お子さんは)
6		・家族の性格 「自分の家族の人となりについて簡単に話す事ができる」	人 は 性格 です。 人 は、～が好きです/嫌いです。 人 は、～が上手です/下手です。 (家族名 はどんな人ですか)

回	大きいトピック	・小さいトピック ・Can-do statements	問いかけの文 言語項目(文法)
7	家族	・記念日/プレゼント/思い出 「家族との記念日や誕生日に何をあげたりもらったりしたかを伝える事ができる」	誕生日は 日です。 日時・日付 に、～ました。(生まれました、結婚しました等) 記念日 に 人 に プレゼント をもらいました。 記念日 に 人 に プレゼント をあげました。 (誕生日はいつですか) (何をもらいましたか) (何をあげましたか)
8		5～7の復習	
9	母国	・母国について 「自分の国についての簡単な情報を伝え、相手にイメージしてもらうことができる」	～は～の 位置/方角 にあります。 日本の 倍/分の ぐらいの大きさです。 人口は 人ぐらいです。 (国名 はどこにありますか) (日本と比べてどうですか)
10		・母国について 「自分の国の特徴について簡単に伝えることができる」	国名 は 形容詞 です。 ～が有名です。 国名 は～が 形容詞 国です。 (国名はどんな国ですか) (国名 は何が有名ですか)
11		・母国について 「自分の国の食文化について簡単に伝える事ができる」	国名 では、～をよく食べます。 (国名 では、何をよく食べますか) 一番有名な料理は 料理名 です。これは～と～(～と)の料理です。 (どんな料理が有名ですか)
12		9～11の復習	
13	関係を作る	友人関係を作る 「人を誘ったり、誘いに応じたりすることができる」	・第3回の項目の復習 趣味は～です。 (趣味は何ですか) 今度一緒に～ませんか。 ええ、もちろん。/ええ、～ましょう (この回はいままでと違い、 と が一対一対応ではない)
14		友人関係を作る 「人を誘ったり、誘いに応じたりすることができる。日時調整ができる。」	・第13回の復習 いつがいいですか。 日時 がいいです。/(日時)はどうですか。 どこで会いますか。 ～で会いましょう。/(場所は)どうですか) (この回はいままでと違い、 と が一対一対応ではない)
15	まとめ	全体の復習・まとめ	・全体の復習を行い、可能なら今までの項目をつなげて、簡単なスピーチをする。

平成29年度 外国人市民のための日本語教室 緊急時会話コース2017
【カリキュラム】

回	大きいトピック	・小さいトピック ・Can-do statements	語彙 文法
1	健康・地域	・隣人に様態を伝えて助言を求めることができる。	身体の部位、診療科の種類、病状などの言葉 (・近くに住んでいる と言います) ・～んですが(状況説明)+どこの病院がいいですか。 ・すみませんが、～てください。
2	健康・病院	・病院に電話して、予約を取ることができる。	予約の時間に関することば(曜日、時間) ・予約したいです。初めてです。
3		・病院で初診の手続きをすることができる。 ・診察時に簡単な応答をすることができる。 ・医者言葉が分からない時に聞き返すことができる。 ・表を見ながら薬の飲み方を理解することができる。	過去を表す語彙(昨日/一昨日/先週など)、多言語医療問診票内の言葉、薬の飲み方に関する語彙(食前/食間/食後など) ・すみません、予約した です。 ・すみません、もう一度お願いします。 ・ (上昇調での聞き返し) ・ って何ですか。
4	安全・電話	・犯罪の場面に遭遇した時、声を上げて周りに知らせたり、助けを求めることができる。 ・犯罪の場合に適切な機関に電話をかけ、簡単な状況説明をすることができる。	助けて!/泥棒!、110番、警察、泥棒/ひったくり/ストーカー、大垣警察署の電話番号 携帯に入れる(0584-78-0110) ・～んですが... 例 スーパーで自転車を盗まれたんですが... 今、ひったくりにあったんですが... ちょっと、ストーカーのことで相談したいんですが...
5		・火事/救急の場合、消防署に連絡をすることができる。 ・緊急の時のカードを作成し、常に身につける。 第1回~4回の内容の復習 ・岐阜市で発行されている外国人用のガイドブックなどがあれば、各国のものを受講生に配布。	火事だ!、119番、消防署、火事/救急、~から火が出ている/~が燃えている、既習の病気の表現、名前のカタカナ読み発音

日本語教室 受講者アンケート集計結果（基礎コース）

回収数：第1期 8人
第2期 6人

<あなたについて教えてください>

国はどこですか？

	第1期	第2期	合計
ベトナム	2人	4人	6人
フィリピン	3人	1人	4人
中国	2人	0人	2人
アメリカ	0人	1人	1人
ブラジル	1人	0人	1人
計	8人	6人	14人

なんさいですか？

	第1期	第2期	合計
20歳代	2人	2人	4人
30歳代	5人	4人	9人
40歳代	1人	0人	1人
計	8人	6人	14人

男ですか？ 女ですか？

	第1期	第2期	合計
男	4人	4人	8人
女	4人	2人	6人
計	8人	6人	14人

どうして日本に来ましたか？

	第1期	第2期	合計
働くため	3人	2人	5人
研修・実習のため	3人	2人	5人
家族が日本で暮らすため	1人	1人	2人
日本に対する興味	0人	1人	1人
無回答	1人	0人	1人
計	8人	6人	14人

日本にどのくらいいますか？ いつ来ましたか？

	第1期	第2期	合計
3年以上5年未満	1人	1人	2人
1年以上3年未満	2人	0人	2人
1年未満	5人	5人	10人
計	8人	6人	14人

日本にどのくらいいますか？ いつまでいますか？

	第1期	第2期	合計
3年以内に帰国	5人	4人	9人
いつかは帰国予定(時期は未定)	1人	1人	2人
ずっと日本にいる	0人	1人	1人
無回答	2人	0人	2人
計	8人	6人	14人

<日本語教室について教えてください>

【問1】この日本語教室のことをどこで知りましたか？

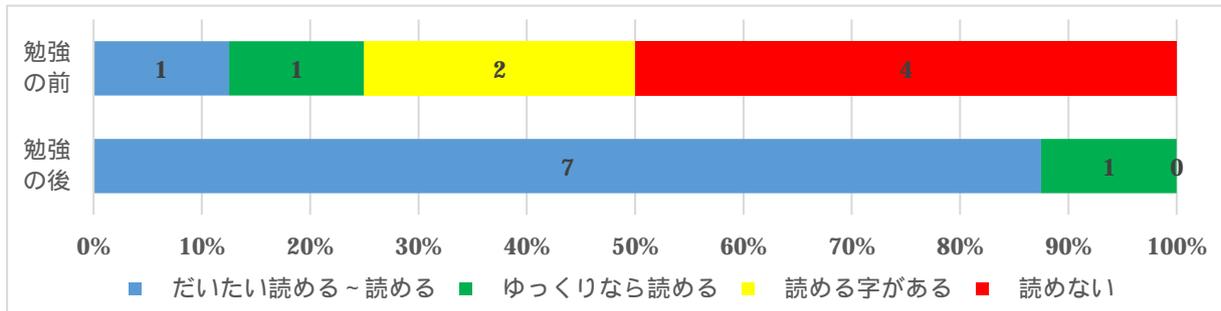
	第1期	第2期	合計
友だちに教えてもらった	5人	3人	8人
スイトピアセンターでおしえてもらった	3人	0人	3人
会社からの紹介	0人	2人	2人
インターネットで見つけた	0人	1人	1人
計	8人	6人	14人

【問2】日本語教室にどうしてきましたか？

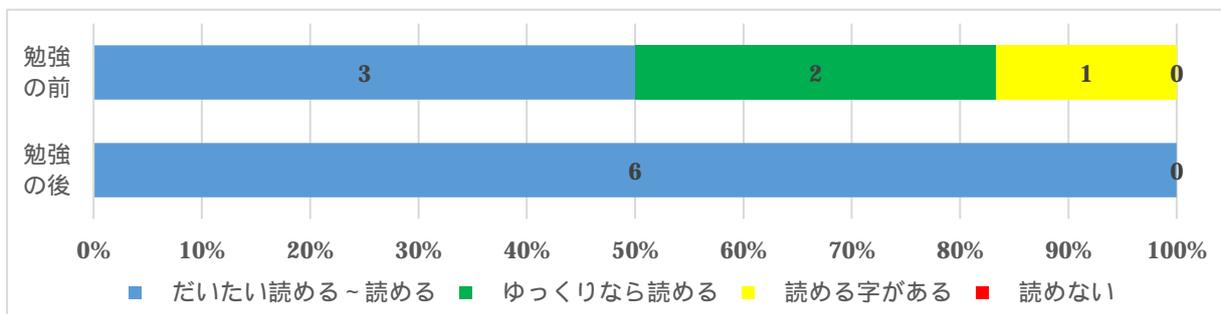
	第1期	第2期	合計
仕事の役に立つから	5人	4人	9人
家族(子ども・親)のため	2人	1人	3人
買い物や隣人と話すのに便利だから	0人	1人	1人
日本語が好きだから	1人	0人	1人
計	8人	6人	14人

【問3】 ひらがなを勉強しましたが、どれくらい読めるようになりましたか？ ~
の中から選んでください。

第1期

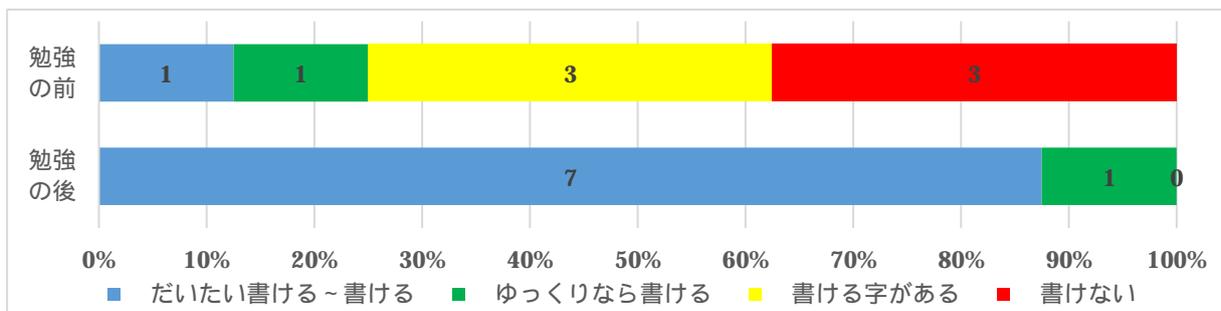


第2期

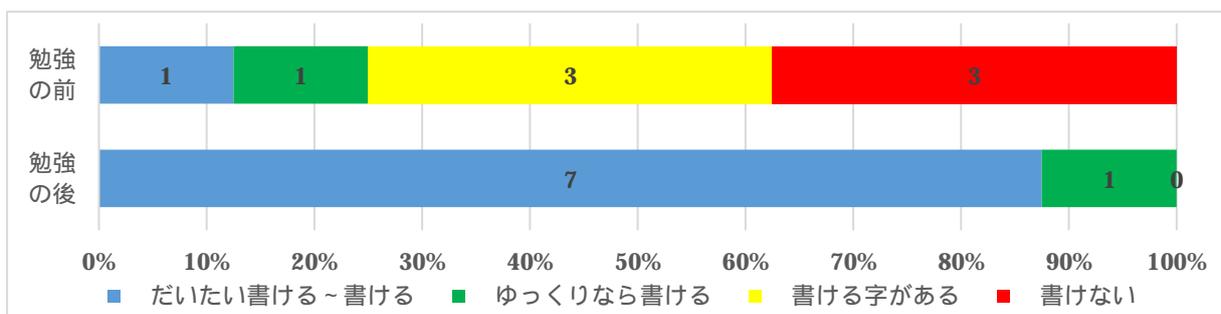


【問4】 ひらがなを勉強しましたが、どれくらい書けるようになりましたか？ ~
の中から選んでください。

第1期

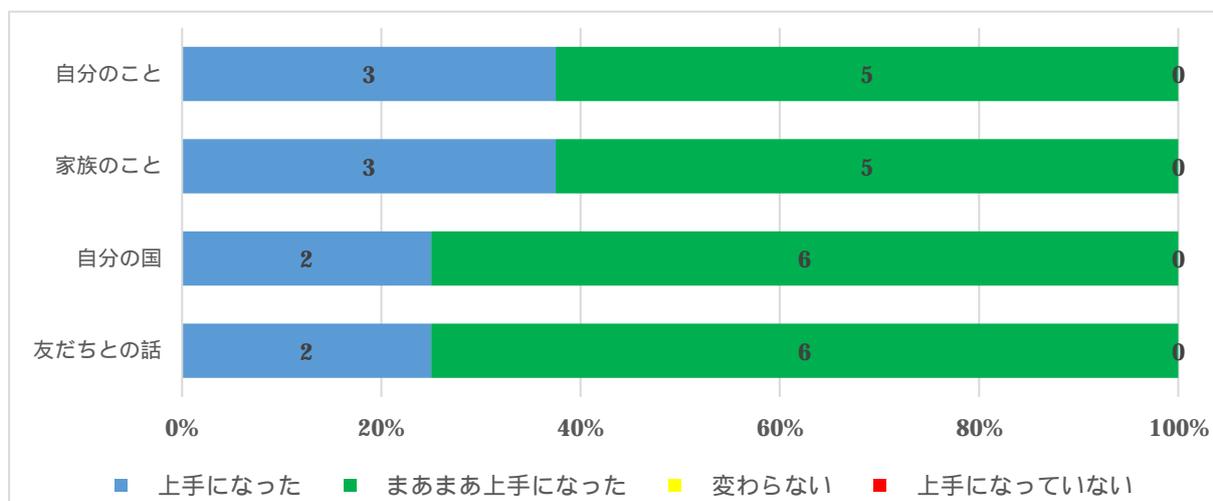


第2期

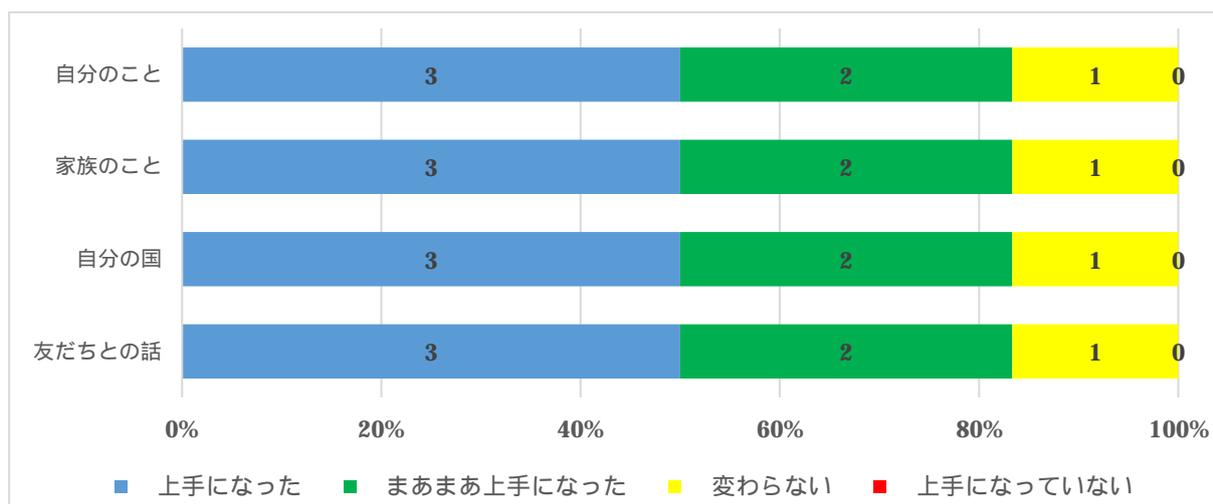


【問5】「ふりかえりシート」の言葉を使って話せるようになりましたか？ ~ の中から選んでください。

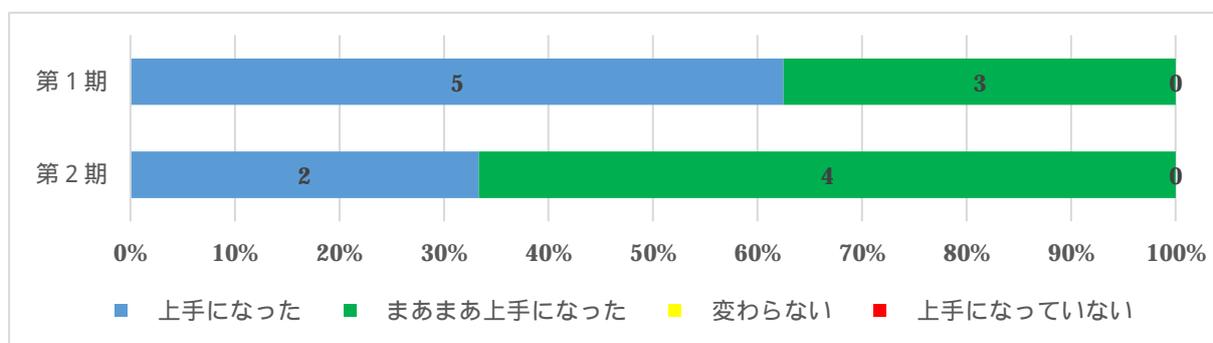
第1期



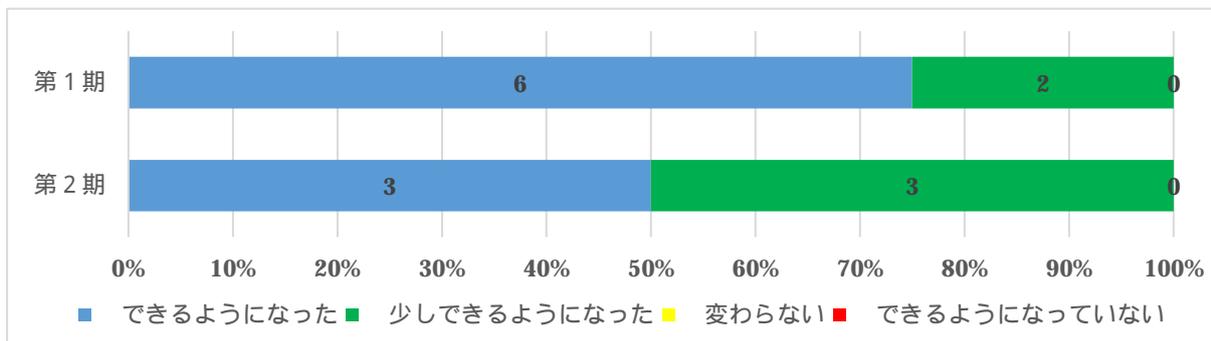
第2期



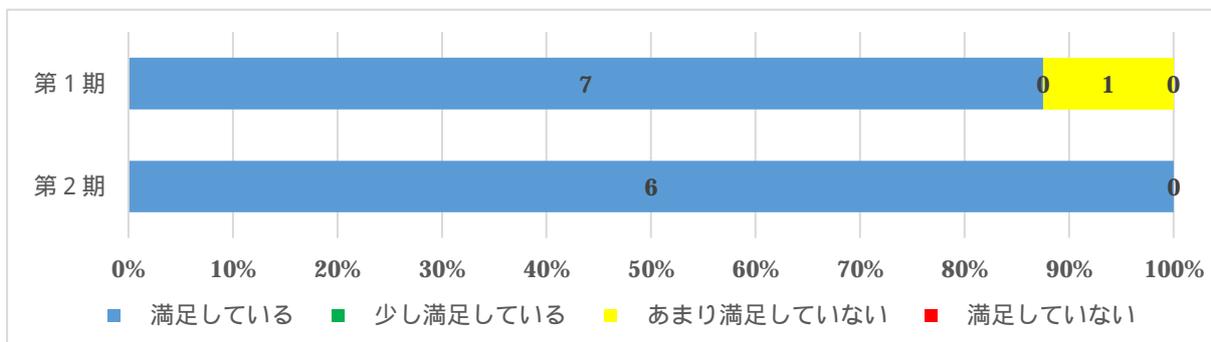
【問6】このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったと思いますか？



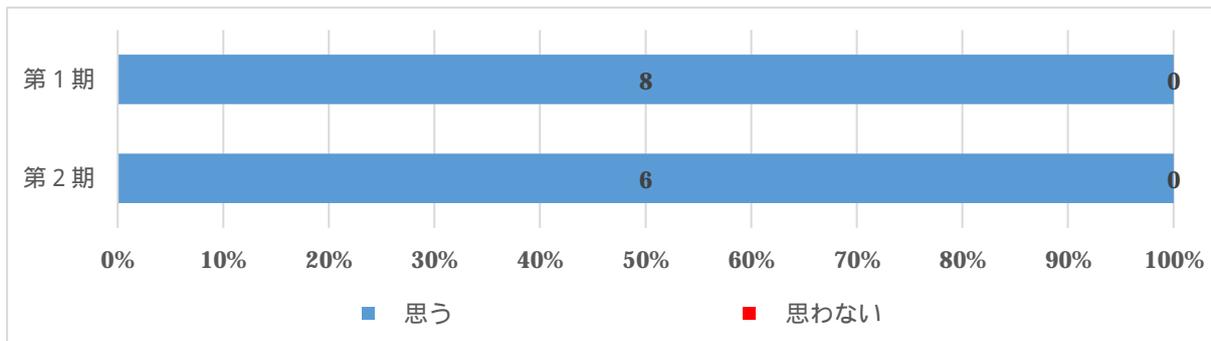
【問7】このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？



【問8】このプログラムの内容に満足していますか？



【問9】もっと日本語を勉強したいと思いますか？



【問10】教室で覚えた言葉で、家や仕事で使っている言葉を3つ教えてください。

- ・名前
- ・仕事はどうですか
- ・趣味
- ・休みの日はどこに行きますか
- ・国
- ・だいたい
- ・はやい/ゆっくり
- ・人生
- ・いそがしい
- ・ずっと
- ・料理
- ・主婦
- ・おいしい
- ・しりとり
- ・私
- ・わがまま
- ・先生
- ・きびしい
- ・幼稚園
- ・ジェスチャー
- ・病院(クリニック)
- ・万里の長城
- ・子ども
- ・買い物
- ・言葉
- ・誕生日
- ・自己紹介
- ・日にち
- ・今何をしていますか
- ・月

【問11】日本語じゃなくてよいので、思ったことを自由に書いてください。

- ・私たちに一生懸命、我慢強く教えてくれてありがとうございました。(訳)
- ・ひらがなとカタカナの読み書きの仕方を学んだ。ありがとうございました。(訳)
- ・先生は常識を教えてくださいました。それで、日本語といろいろな知識が増えました。いつもとてもありがとうございます。
- ・子どもの園の先生と話すときなどに役立っています。本当にありがとうございました。楽しかったです。(訳)
- ・この教室に参加できてとてもよかったです。先生たちは根気よく一生懸命教えてくれました。日本の文化をたくさん勉強することができました。(訳)
- ・とても楽しかったです。もっと上級のクラスがあるといいです。(訳)
- ・いろいろなことばをもらいました。
- ・仕事や生活の役に立つと思います。
- ・日本語で話せるようになりました。
- ・もっと日本語の勉強をしたいです。

()内は事務局による補足。(訳)とあるものは事務局により翻訳して掲載したものの。

日本語教室 受講者アンケート集計結果（緊急時会話コース）

回収数：第1期 5人
第2期 10人

<あなたについて教えてください>

国はどこですか？

	第1期	第2期	合計
ブラジル	3人	2人	5人
フィリピン	1人	3人	4人
ベトナム	1人	2人	3人
ロシア	0人	2人	2人
アメリカ	0人	1人	1人
計	5人	10人	15人

なんさいですか？

	第1期	第2期	合計
20歳代	2人	4人	6人
30歳代	2人	3人	5人
40歳代	0人	2人	2人
50歳代	0人	1人	1人
70歳代	1人	0人	1人
計	5人	10人	15人

男ですか？ 女ですか？

	第1期	第2期	合計
男	0人	4人	4人
女	5人	6人	11人
計	5人	10人	15人

どうして日本に来ましたか？

	第1期	第2期	合計
働くため	2人	6人	8人
家族が日本で暮らすため	3人	3人	6人
日本に対する興味	0人	1人	1人
計	5人	10人	15人

日本にどのくらいいますか？ いつ来ましたか？

	第1期	第2期	合計
5年以上	1人	0人	1人
3年以上5年未満	0人	1人	1人
1年以上3年未満	3人	7人	10人
1年未満	1人	2人	3人
計	5人	10人	15人

日本にどのくらいいますか？ いつまでいますか？

	第1期	第2期	合計
3年以内に帰国	1人	2人	3人
いつかは帰国予定(時期は未定)	0人	2人	2人
ずっと日本にいる	4人	6人	10人
計	5人	10人	15人

どのくらい日本語がわかりますか？

	第1期	第2期	合計
上手に話すことができる	0人	0人	0人
	2人	1人	3人
	3人	4人	7人
	0人	2人	2人
あまり話せない	0人	3人	3人
計	5人	10人	15人

<日本語教室について教えてください>

【問1】この日本語教室のことをどこで知りましたか？

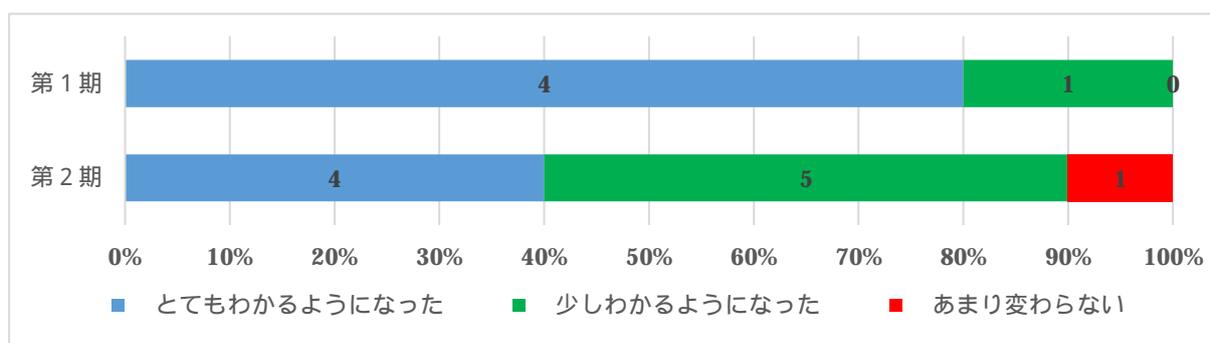
	第1期	第2期	合計
友だちに教えてもらった	1人	5人	6人
スイトピアセンターでおしえてもらった	4人	0人	4人
インターネットでみつけた	0人	3人	3人
家族に教えてもらった	0人	1人	1人
会社から教えてもらった	0人	1人	1人
計	5人	10人	15人

【問2】日本語教室（緊急時会話コース）にどうしてきましたか？

	第1期	第2期	合計
すぐに日本語を勉強したかったから (他に勉強できるところを知らないから)	4人	8人	12人
勉強するテーマ(病院での会話・警察や 消防との会話)について知りたかったから	1人	2人	3人
計	5人	10人	15人

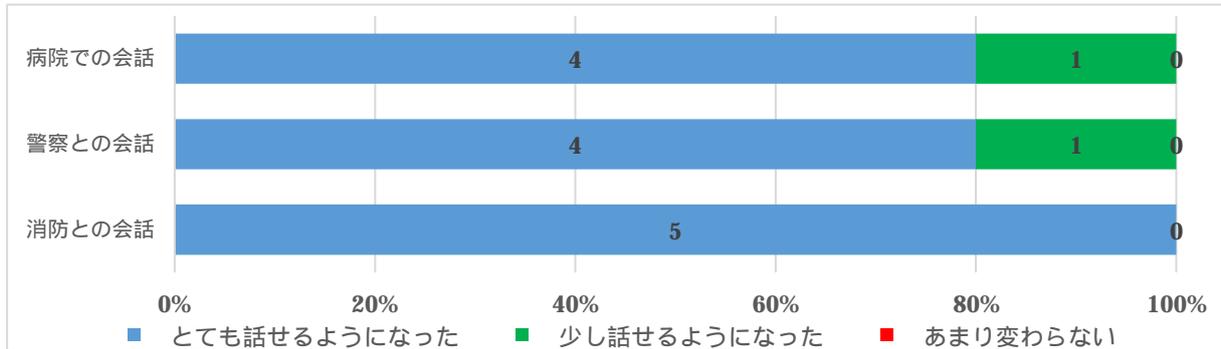
<日本語教室に参加して、どうだったか教えてください>

【問3】勉強したテーマについて、前より日本語を聞いてわかるようになりましたか？

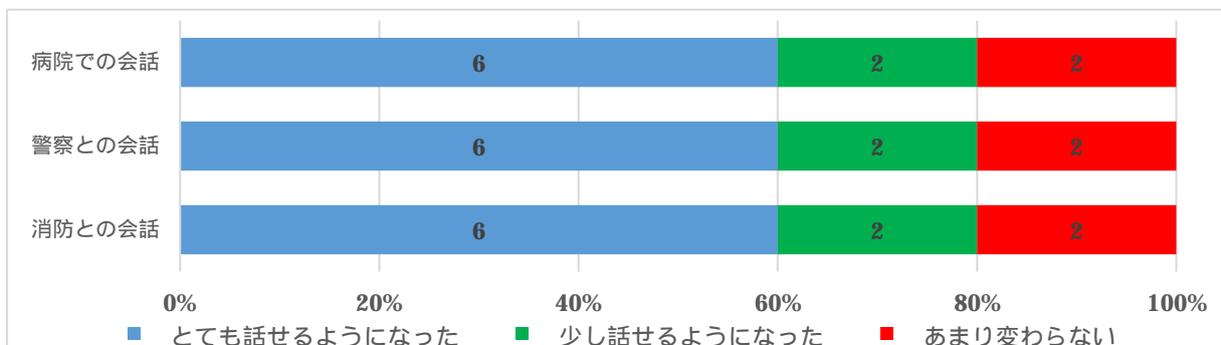


【問4】勉強したテーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか？

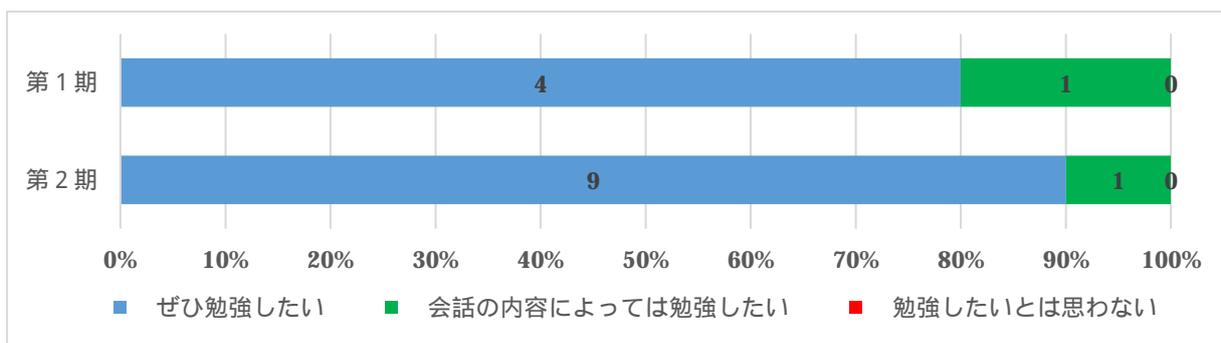
第1期



第2期



【問5】次に会話を勉強する教室がある時も勉強したいと思いますか？



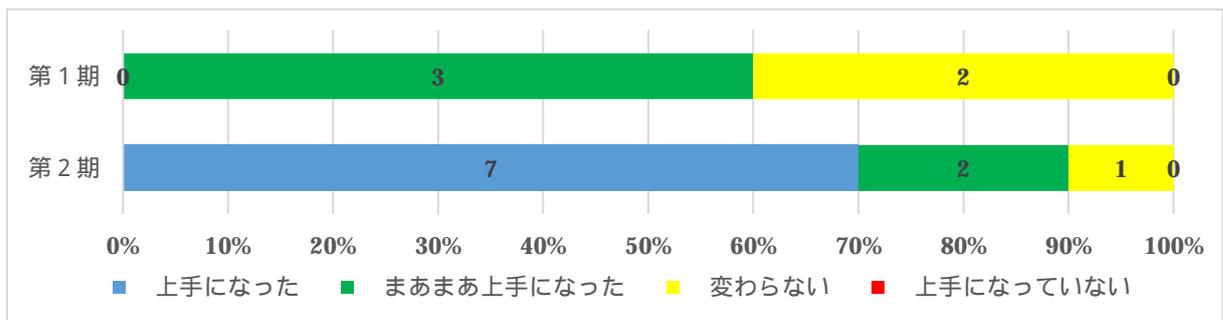
【問5-2】(問5で と答えた人だけ) どんな内容の会話を勉強したいですか？

- ・ 買い物の会話
- ・ 日本文化

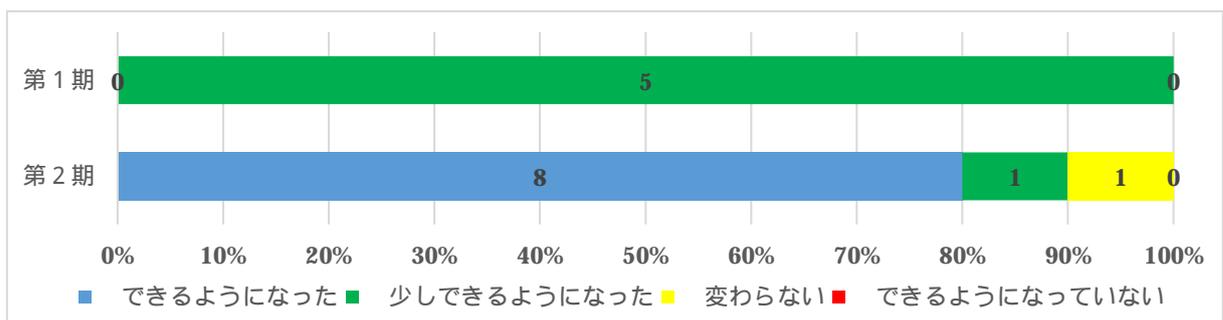
【問6】教室で覚えた言葉で、使えそうな言葉や、使っている言葉を3つ教えてください。

- ・警察
- ・消防
- ・火事
- ・救急車
- ・場所
- ・病気
- ・病院
- ・予約
- ・頭痛、腹痛
- ・(頭が、おなかが)痛い
- ・電話番号
- ・意識
- ・呼吸
- ・薬
- ・たばこ
- ・コンロ
- ・油
- ・合図する
- ・方向音痴

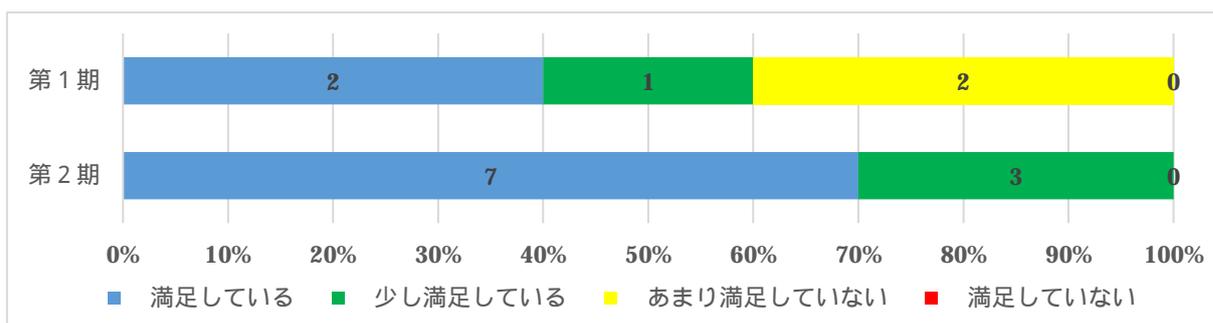
【問7】このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったとおもいますか？



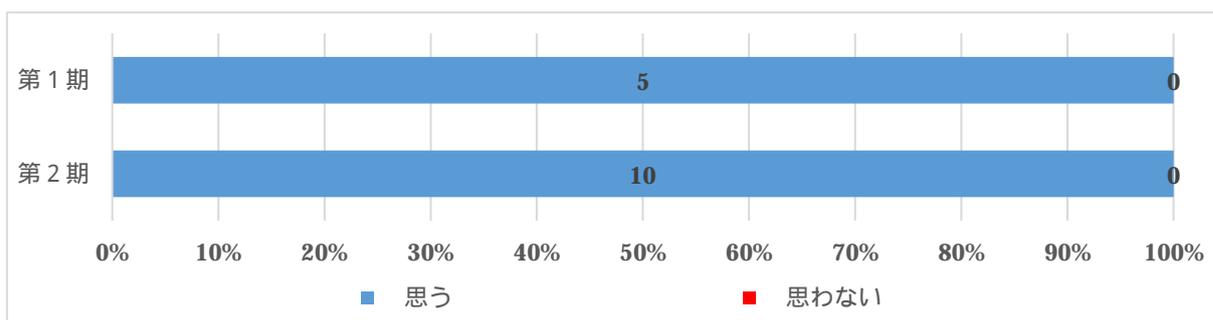
【問8】このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？



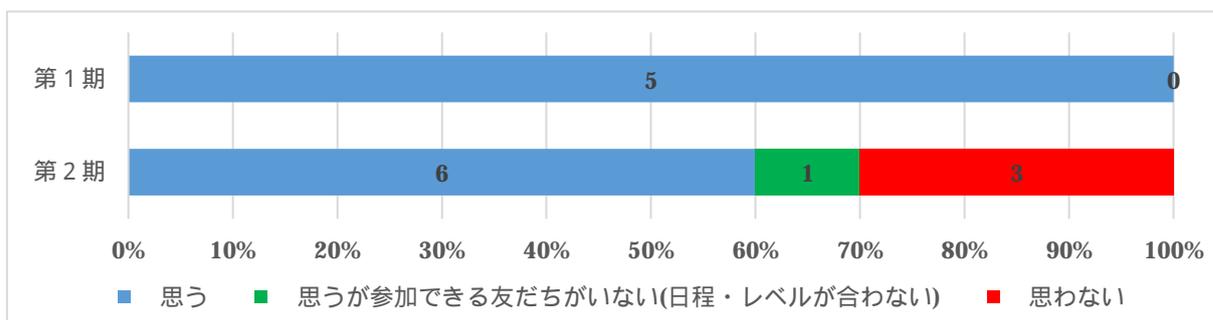
【問 9】このプログラムの内容に満足していますか？



【問 10】もっと日本語を勉強したいと思いますか？

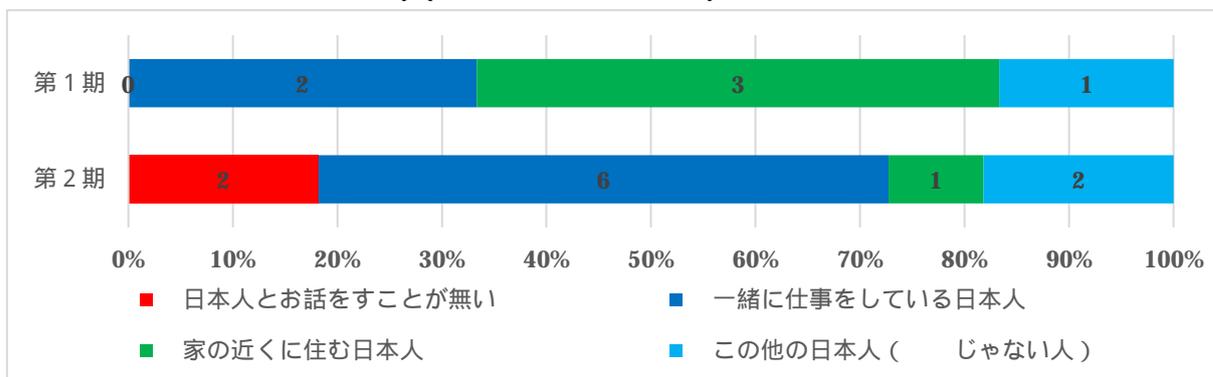


【問 11】この日本語教室に家族や友だちにも参加してほしいと思いますか？

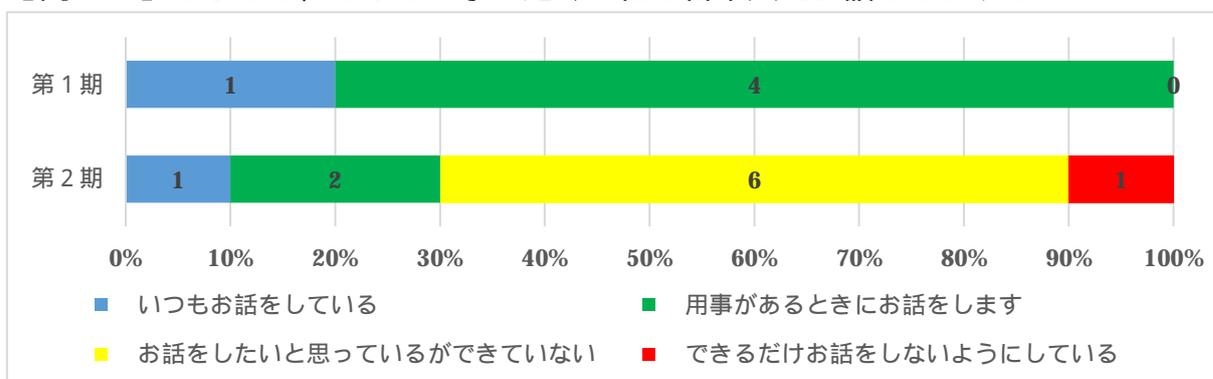


<あなたの生活について教えてください>

【問12】あなたは日本人とお話をしますか？だれとお話をしますか？(いくつ選んでもよいです)(一部複数回答あり)



【問13】あなたは、あなたの家の近くに住む日本人とお話をしますか？



【問14】日本で生活していて、日本語が通じなくて困ったのは、どんな時ですか？

- ・買い物
- ・幼稚園の先生と、子どもについて話す時
- ・病院で
- ・このアンケートをやっているとき

【問15】日本語じゃなくてよいので、思ったことを自由に書いてください。

- ・すべての先生に、ありがとうございました。
- ・先生がすばしかったです。
- ・とてもたくさん勉強できました。楽しかったです。
- ・ともだちを作って、一緒に会話したいです。
- ・いろいろなことを教えてくれました。ありがとうございました。

日本語教室 受講者アンケート集計結果（生活情報習得クラス）

回収数：5人

<あなたについて教えてください>

国はどこですか？

	アンケート回答者数	講座参加者数
ブラジル	3人	5人
ベトナム	1人	2人
フィリピン	1人	1人
計	5人	8人

なんさいですか？

20歳代	1人
30歳代	2人
50歳代	1人
70歳代	1人

男ですか？ 女ですか？

男	0人
女	5人

どうして日本に来ましたか？

働くため	1人
研修・実習のため	1人
家族が日本で暮らすため	3人

日本にどのくらいいますか？ いつ来ましたか？

5年以上	1人
1年以上3年未満	2人
1年未満	2人

日本にどのくらいいますか？ いつまでいますか？

3年以内に帰国	2人
ずっと日本で暮らす予定	3人

どのくらい日本語がわかりますか？

上手に話すことができる	0人
	0人
	2人
	2人
あまり話せない	1人

<日本語教室について教えてください>

【問1】この日本語教室のことをどこで知りましたか？

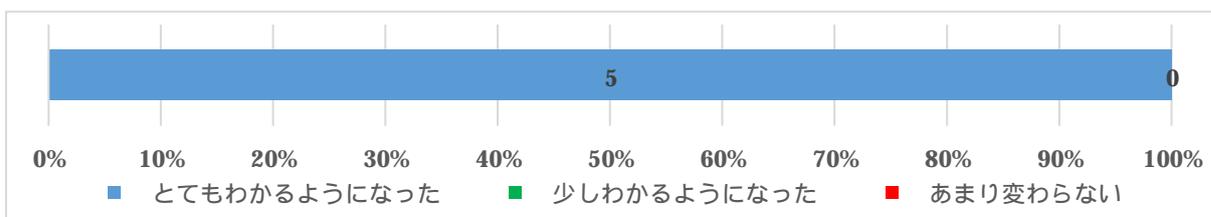
スイトピアセンターでおしえてもらった	5人
友だちに教えてもらった	0人
インターネットで見つけた	0人
ちらしを見た	0人

【問2】日本語教室（緊急時会話コース）にどうしてきましたか？

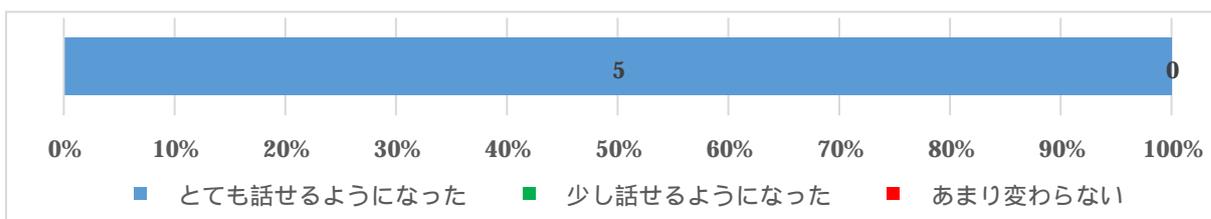
すぐに日本語を勉強したかったから （他に勉強できるところを知らないから）	5人
勉強するテーマ（ゴミ出し・電話・災害・交通ルール） について知りたかったから	0人

<日本語教室に参加して、どうだったか教えてください>

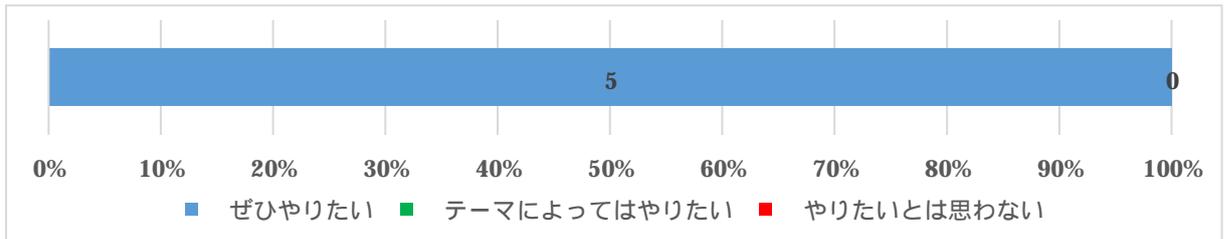
【問3】勉強したテーマについて、前より日本語を聞いてわかるようになりましたか？



【問4】勉強したテーマについて、前より日本語を使って話せるようになりましたか？



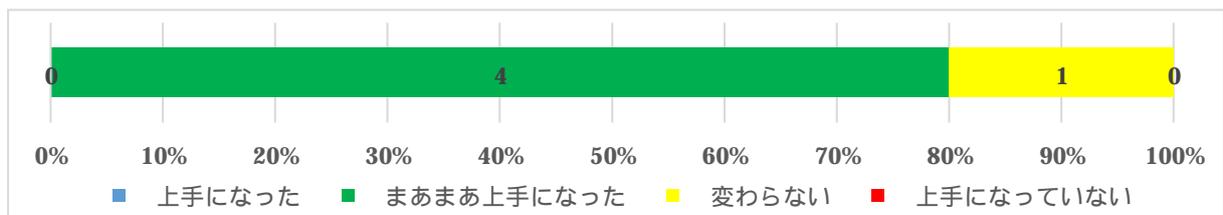
【問5】生活に役に立つことについて勉強する教室があったら次もやりたいと思いますか？



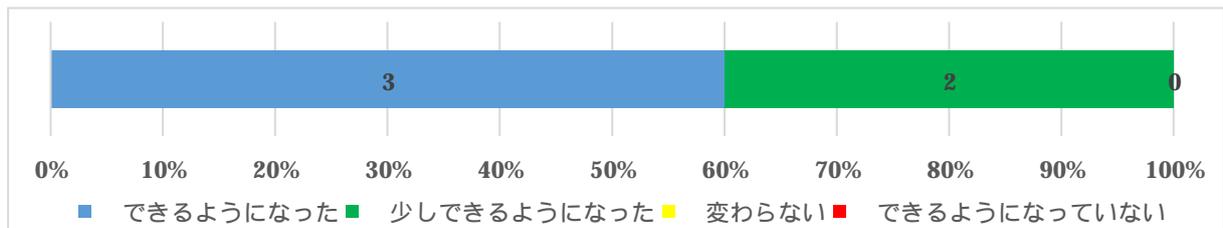
【問6】教室で覚えた言葉で、使えそうな言葉や、使っている言葉を3つ教えてください。

- ・燃えるゴミ
- ・ゴミを出す
- ・地震
- ・電話
- ・八百屋
- ・台風

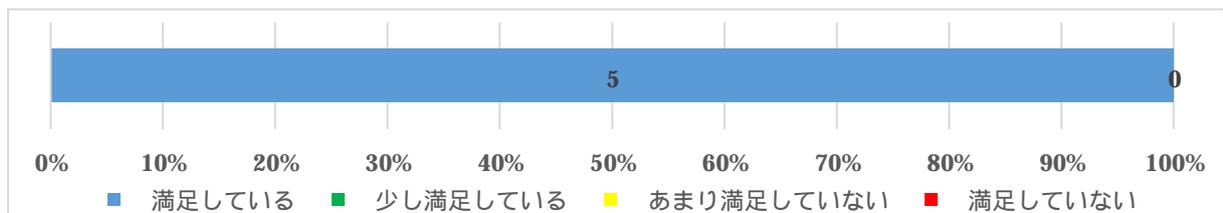
【問7】このプログラムを受けて、あなたの日本語は前より上手になったとおもいますか？



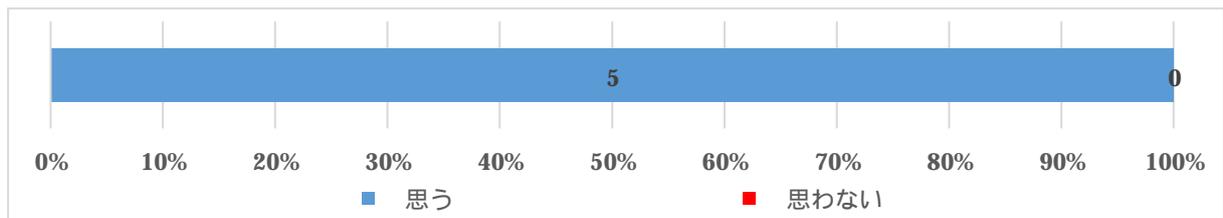
【問8】このプログラムを受ける前よりも、日本での生活ができるようになったと思いますか？



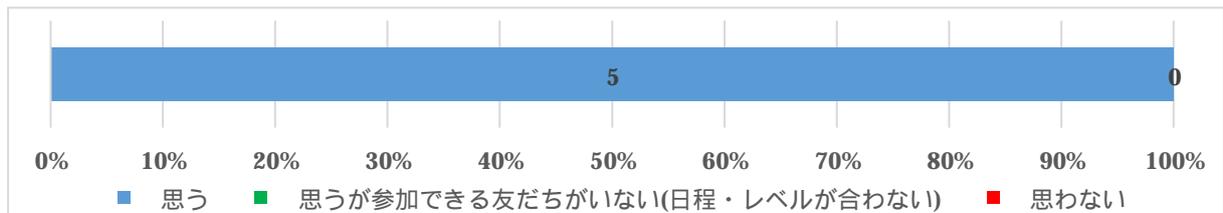
【問9】このプログラムの内容に満足していますか？



【問10】もっと日本語を勉強したいと思いませんか？

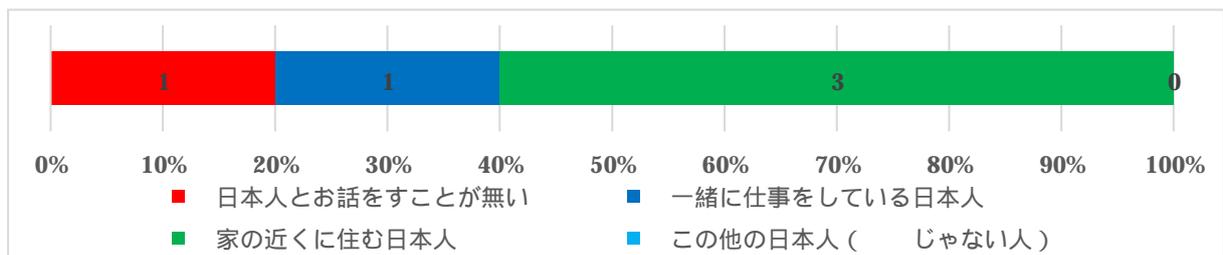


【問11】この日本語教室に家族や友だちにも参加してほしいと思いませんか？

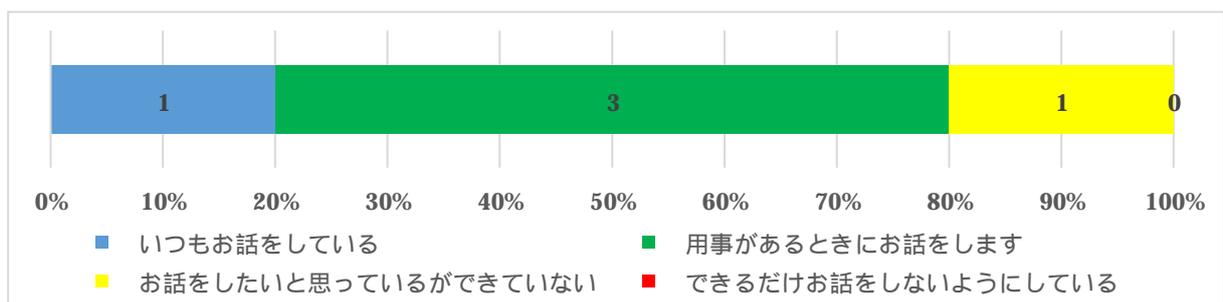


<あなたの生活について教えてください>

【問12】あなたは日本人とお話をしますか？だれとお話をしますか？(いくつ選んでもよいです)



【問13】あなたは、あなたの家の近くに住む日本人とお話をしますか？



【問14】日本で生活していて、日本語が通じなくて困ったのは、どんな時ですか？
・仕事で失敗した時

【問15】日本語じゃなくてよいので、思ったことを自由に書いてください。

- ・先生との練習の時間が短かった。もっと話したい。
- ・この講義はとてもよかったです。

日本語教室 指導者・アシスタント アンケート集計結果

指導者

【問1】 今回のカリキュラムについて、参加外国人の反応はどうか？

1～3回の復習、自己紹介、仕事、趣味など、他の国の人たちと積極的に話す姿勢が見られたて、良かったです。

【問2】 学習者について、気になったことはありますか？

特にありません。国籍が違って、助け合いや交流をしようとする積極的な方が多くて、助かりました。

【問3】 アシスタントについて、気になったことはありますか？

学習者さんに対して熱心に接していらして、とても良かったです。

皆さま長く参加していらっしゃるの、いろいろと慣れていただき、阿吽の呼吸で動いていただけなので大変助かります。

【問4】 そのほか、講師として気づいたことがありましたらお知らせください。

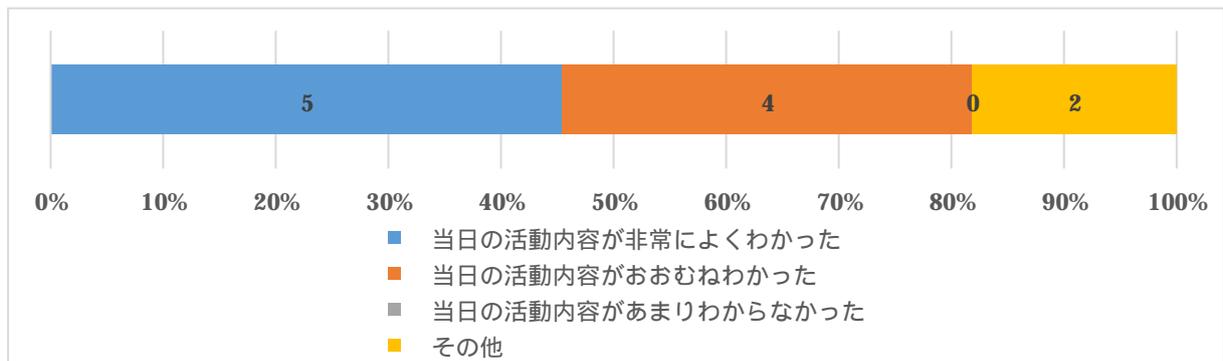
色々なレベルの学習者さんがいらっしゃるの、学び合う時間を大切にできるといいと思いました。

アシスタント

回収数：11人

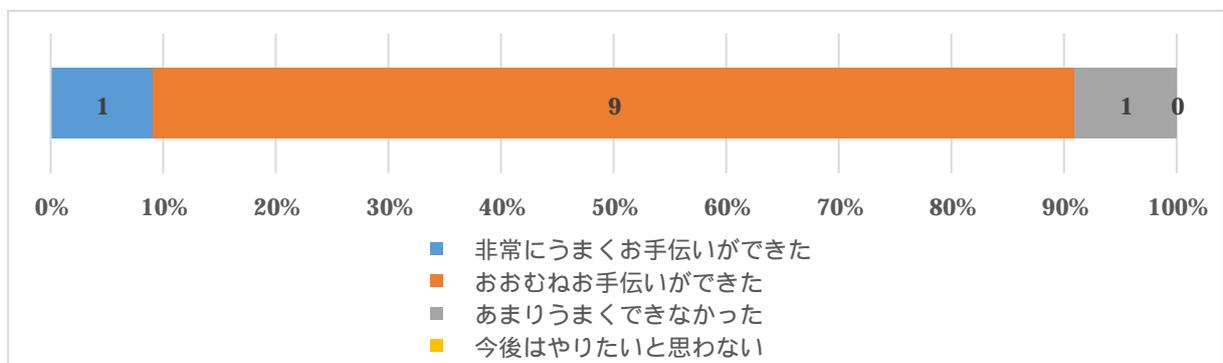
<日本語教室についてお尋ねします>

【問1】9時から行っている事前打ち合わせについての感想はどうか？



- ...・打ち合わせ時間は長くても10分程度なので、現在の9時集合を9時10分集合にしてほしい。
- ・何回か参加して具体的に活動内容がイメージできるようになった。打合せだけで事前に内容を把握するのは難しいのではないか。

【問2】アシスタントとしての自己評価はどうか？



【問2-2】(問2で と答えた方のみ) 改善するためには何が必要だと思われるか？

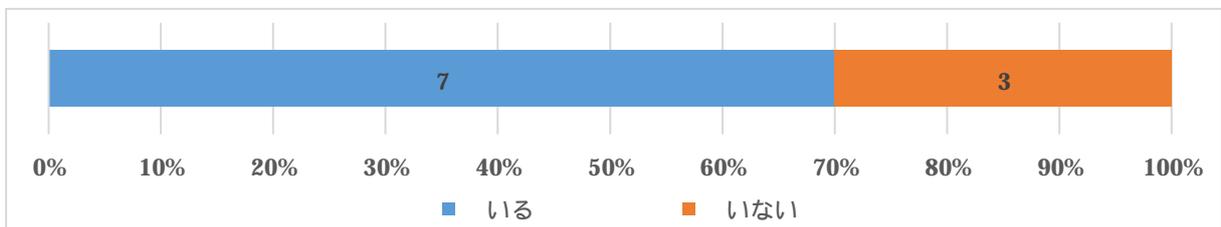
- ・短い文章への言い換えや、簡単な日本語での伝え方を勉強したい。

【問3】日本語教室について、ご意見・ご感想を教えてください。

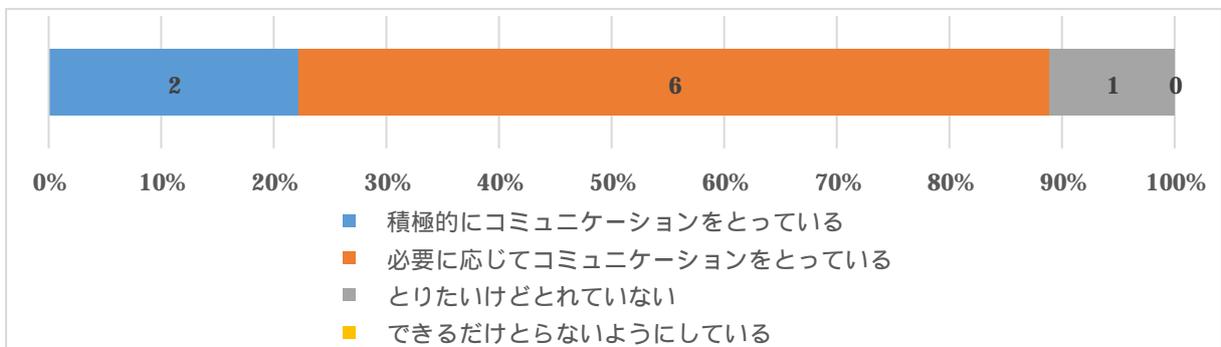
- ・有意義だと思う。
- ・参加外国人が多く、開講価値が大きいと思う。
- ・わざわざ休日に学習に来る外国人の熱心さに感じるものがある。これからもできるだけ協力したい。
- ・身近に外国人を感じられて、自分の役割を確認できる。今後も参加したい。
- ・外国の方の姿勢がすごいと思う。実のある時間になるよう、できない人のフォローアップに努めたい。
- ・自分の勉強になることが多くありがたく参加している。ただ、相手によってはうまく対応できないときがあり、申し訳なく思う。
- ・コミュニケーション能力が低い方にあたった時にフォローが難しいと思うときがある。
- ・会話に消極的な外国人のフォローを心掛けているが、よく話す人が一緒だとどうしてもフォローが遅れてしまい、気になっている。
- ・担当する生徒数が多いと放置状態になってしまうときがある。
- ・上級のクラスを設置してもよいのではないか。

<外国人との共生についてお尋ねします>

【問4】お住まいの地域や職場に外国人はいますか？



【問4-2】(問4で と答えた方のみ)外国人とコミュニケーションをとることはありますか？



【問5】外国人との共生について、普段どのようなことを実践されていますか？（自由にご記入ください）

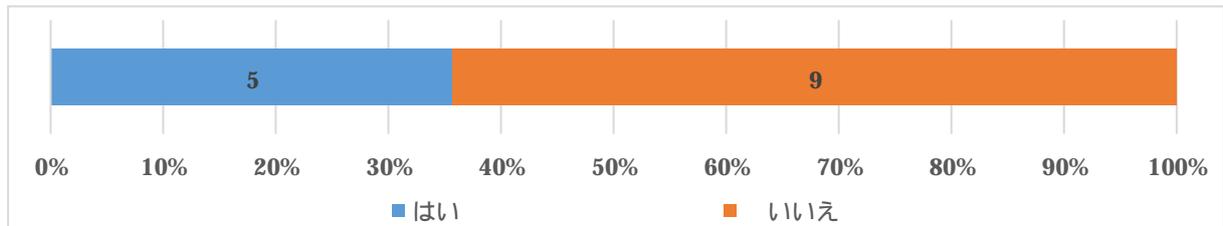
- ・時々国際ニュースを見るようにしている。
- ・外国語が好きで普段から勉強している。知り合った外国人を家に招いて交流している。
- ・外国人と関わることができるイベントがあれば、なるべく参加するようにしている。
- ・外国人と関わる機会が無いとため、実践の機会が無い。機会があると、実際にできることとできないことが実感できると思う。
- ・これからもアシスタントの活動は継続していきたい。
- ・瑞穂市日本語教室に参加している。ベトナム実習生専門のクラスを作った。

日本語指導ボランティア講座 受講者アンケート集計結果

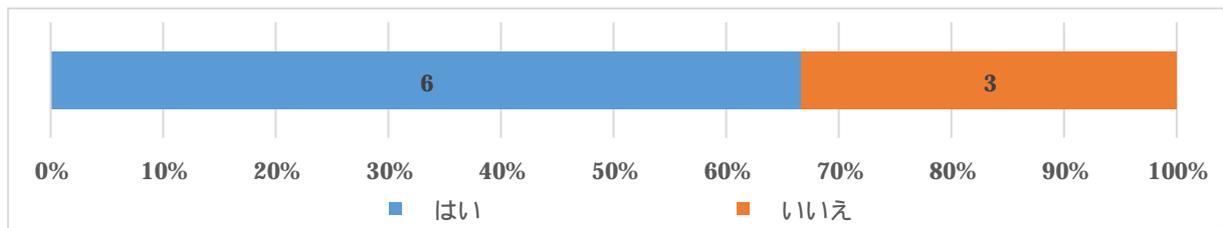
回収数：14人（第2期：8人（受講者数10人） 第3期：6人（受講者7人））

<日本語指導ボランティア講座についてお尋ねします>

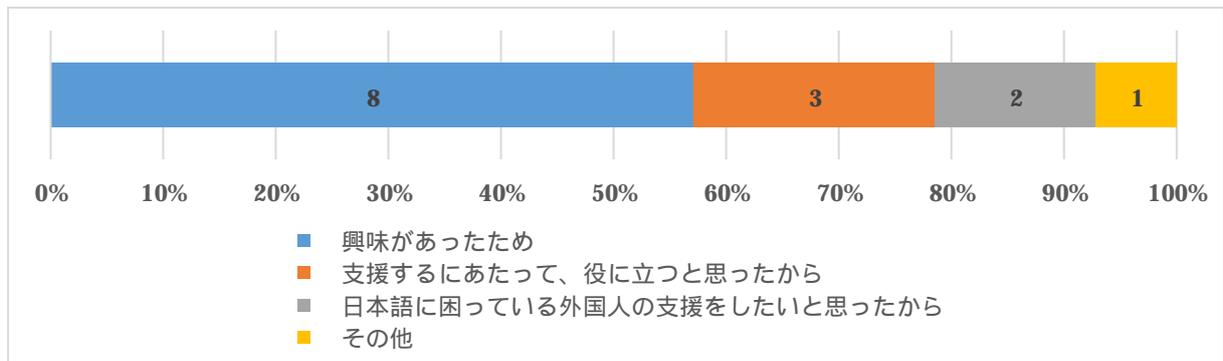
【問1】現在、日本語指導ボランティアとして活動中ですか。



【問1-2】(問1でいいえと答えた方にお聞きします)この講座を受講される前、外国人市民の日本語学習支援があることをご存知でしたか。



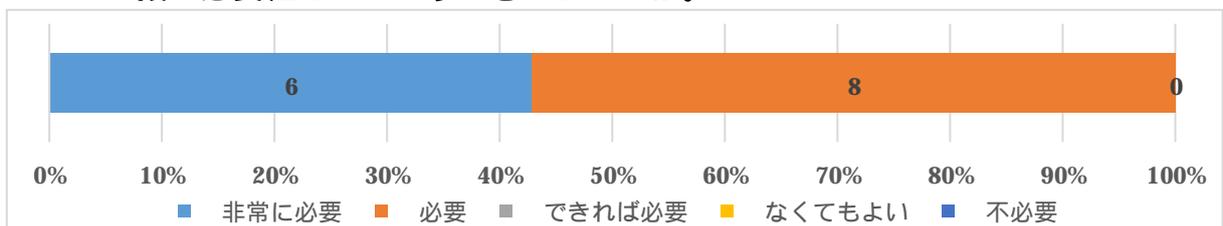
【問2】この講座を受講された理由は何ですか。(一部複数回答あり)



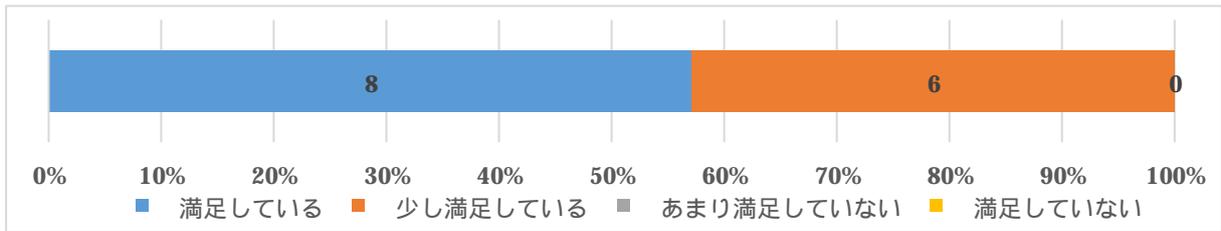
その他

- ・友人がボランティアをしていたため

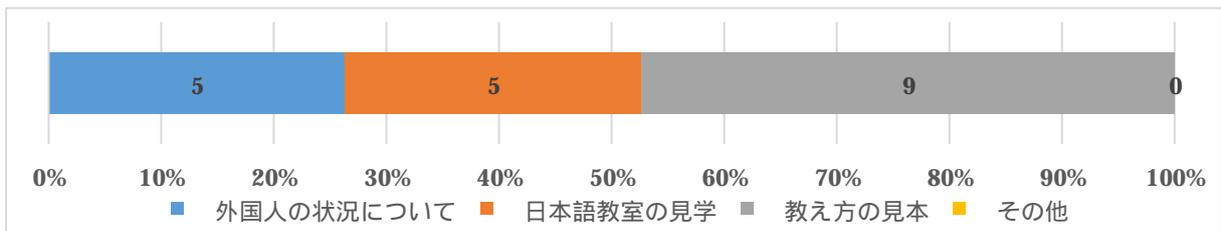
【問3】この講座を受講される前と比較して、外国人市民にとっての日本語学習の支援の必要性をどのように感じましたか。



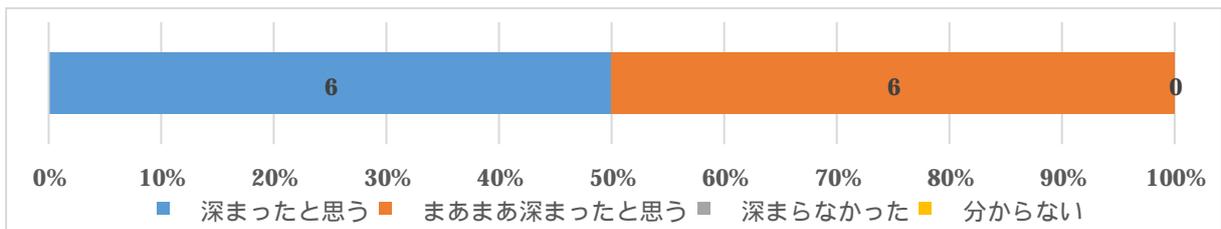
【問4】この講座の内容に満足していますか。



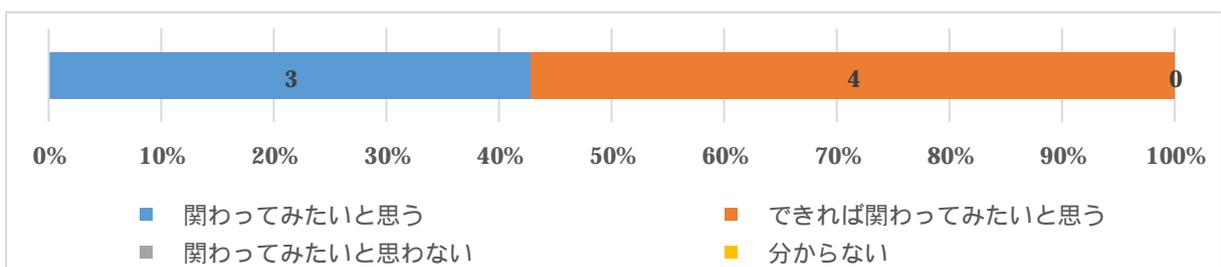
【問5】今回の講座の内容で、今後も受講してみたいと思われたものはありますか。
(複数回答可)



【問6】このプログラムを受ける前よりも、「生活者としての外国人」に対する日本語教育への理解が深まったと思いますか。

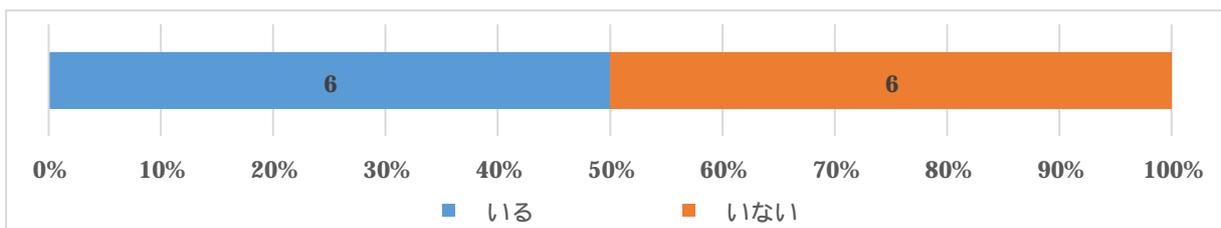


【問7】このプログラムを受けて、「生活者としての外国人」のための日本語教育に関わってみたいと思いませんか。(ボランティアをしたことがない人のみ回答)

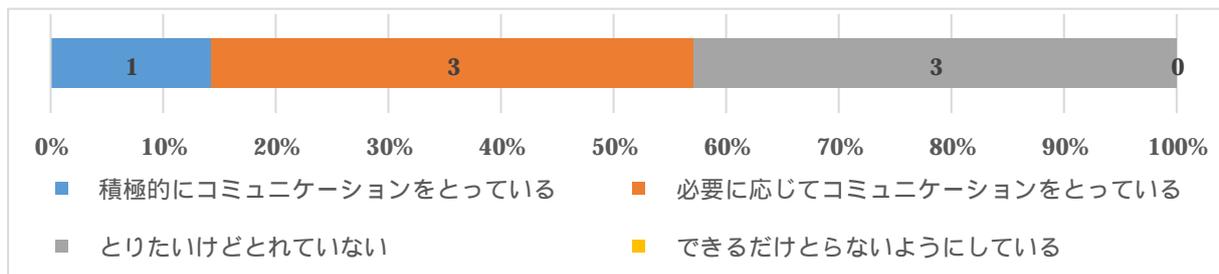


<外国人との共生についてお尋ねします>

【問8】お住まいの地域や職場に外国人はいますか？



【問 8 - 2】(問 6 で、 と答えた方のみ)外国人とコミュニケーションをとることはありますか？



【問 9】外国人との共生について、普段どのようなことを実践されていますか？(自由にご記入ください)

- ・挨拶
- ・日本語教育ボランティア(当協会のボランティア活動者)
- ・教えている外国人の方の、母国でのニュース等を把握する
- ・子どもさんがいる場合は、自分の子や孫の話題も話しあったりしている
- ・相互交流の受入
- ・中国語の勉強をしている
- ・分かる言語でできるだけ話しかけ通じるか試している
- ・ビジネスライクな付き合いに終始している(目的以外は話さない、関わらないようにしている)

【問 10】講座の感想や今後の講座へのご要望、当協会へのご意見等、ご自由にご記入ください。

- ・日本語教室の見学時、参加型にするとよいのではないかと
- ・正式なものでなくても良いが、講座の修了証を発行してくださると受講の励みになると思う
- ・外国人の方から受けるものにしてみると、やさしくて分かりやすいのではないかと
- ・私自身も学びたいと思う
- ・講座を土日の休日に実施すれば、多くの方が受講されると思う
- ・実際講座に参加して良かったと思いましたが、教室見学の中で外国人の人と話しをしてみてくださいと言われて戸惑ってしまいました(マンツーマン方式の様子を見学している際、ボランティア活動者が言ったと思われる)
- ・講座はわかりやすくよかったと思う
- ・外国人に日本語を教える難しさを感じた

【問 6】以降は一部の受講者の回答なし(裏面のため気づいていないと思われる)